ＯＭＳプロデュース

「その鉄塔に男たちはいるという」

作・土田英生

■登場人物

吉村・木暮・笹倉・上岡（「コミックメン」メンバー）
城之内（脱走兵）

■時と場所

日本以外のどこか。森林に立つ鉄塔に組まれた櫓。

第一場

とある戦争の最中のこと。
突然、戦うことを放棄した人々がいた。
つい昨日までは最前線のテントの中で、
楽しくにぎやかに人を笑わせていたはずなのに、
今日の朝食後に彼らを見たものは誰もいない。
しかしある情報筋によれば、
その鉄塔に男たちはいるという―。

夜……。虫の声が聞こえる……。
深い森の中に立つ巨大な鉄塔。
その太い鉄柱が月明かりに照らされている。背後には闇が広がっている。
その鉄塔の途中に木で組まれた櫓。そこは板張りで数人が横たわっているのがなんとなく判る。
下手前にいる男（吉村）が上半身を起こし、やたらと辺りを見回しているが、そのうち……。

吉村　……（かなり小さな声で）もう、みんな寝た？

しかし誰も答える様子はない。

吉村　……寝た？　……（つまらなそうに）寝たか……。

間。

吉村　本当に寝た？

吉村は懐中電灯を点け、みんなの姿を照らしていく。
上手奥には上岡、上手前に木暮、下手奥に笹倉。
しかし三人ともどうやら本当に眠っているようだ。

吉村　……ぐうぐう寝ちゃって。……いい気なもんですねえ。……良く寝れるね、ホント。……もしこれが冬だったらどうする？　凍死しちゃうよ、寝ている間に。

懐中電灯に照らされている笹倉が、その光を避けるように寝返りをうった。吉村は懐中電灯を消す。

吉村　……凍死って苦しいのかね？　アレか……意外と気持ち良く眠っている間にぽっくりと行くのか？　……はいはい、寝てるもんね、そうね。ハハハ、もう凍死してたりして。

吉村も静かになった。しかし、

吉村　（小さい声で）うおう。

誰も答えない。

吉村　（少し大きい声で）うおう。……（ガバっと起きて）誰か起きてる？

誰も答えない。懐中電灯で再び皆を照らして。

吉村　畜生……良く眠れるよねえ、みんな、こんな所でさ。無神経

だよ、無神経。

自分の足元を照らして、

吉村　知ってる？　実は今日は俺の三十の誕生日だったんだよ。自分でも忘れてたんだけど。……（ため息）ま、三十になって誕生日も何もないけど……でも、淋しいもんだよな、こんな所で。

吉村は諦めて横になる。そして懐中電灯で遊びながら、

吉村　……（小さな声で歌いだす）ハッピバースデートゥー……ミー……ハッピバースデートゥーミー、ハッピバースデーディア……雄二……ハッピバースデートゥーミー。

淋しく懐中電灯を消す吉村。
しばらくの静寂。
と、誰かがいい加減でぞんざいな拍手。

吉村　（ガバッと起きて）誰？　誰？　起きてるの？
木暮　（眠そうな声で）もう、寝て下さいよ。
吉村　（嬉しそうに）あ、木暮？　木暮だろ？

と、懐中電灯を点けて木暮を照らす。木暮は上半身だけ起こして眩しそうに……

木暮　ちょっと眩しい。
吉村　お前、起きてるなら答えてよ。
木暮　（少し小声で）起きてませんよ。

吉村　起きてるじゃないの？
木暮　起きちゃったんですよ、吉村さんの歌で。
吉村　（嬉しい）そっかそっか。
木暮　消して下さいよ、それ。眩しいじゃないですか。
吉村　おう。（と、懐中電灯を消す）
木暮　……大体、電池無駄遣いするなって上岡さんも言ってたでしょう？　寝ましょうよ、夜は。
吉村　寝れないんだよ。
木暮　じゃ静かにしてて下さいよ。みんな寝てるんですから。
吉村　うん……。
木暮　共同生活なんですから。
吉村　分かってるよ。
木暮　おやすみなさい。

と、木暮は横になる。

吉村　え？　寝ちゃうの？　木暮。
木暮　はい。
吉村　（未練がましそうに）ふんふんふんふん。
木暮　吉村さんも寝て下さいよ。
吉村　だから……
木暮　（遮って）目つむってじっとしてたらそのうち寝れますよ。
吉村　駄目だよ。淋しくてさ、耐えられないんだよ。こんな状況って。
木暮　だけどみんな眠ってるじゃないですか。
吉村　俺、駄目なんだよ、真っ暗って。体質かなあ、暗闇に弱いんだよ。
木暮　おやすみなさい。

と、木暮は会話を打ち切る。
仕方なく吉村も横になる。虫の声。

吉村　（小声で）木暮。……木暮……こぐれ。

吉村は懐中電灯で木暮の顔を照らす。そして点けたり消したり。

木暮　……（苛々しながら）もう、何ですか。
吉村　ん、まだ寝てなかったの？
木暮　寝れないでしょう？　……消して下さいって、それ。
吉村　おう。

吉村は懐中電灯を消すが……
人が動く気配。やがて……

木暮　……ちょ、どうして隣に来るんですか？
吉村　大きい声出せないだろ？　みんな寝てるし。
木暮　お願いですから、お願いですから寝てくださいよ。僕も眠たいんですよ。
吉村　……。
木暮　ね？
吉村　分かった分かった。寝る。寝るし、もう邪魔しないから……一つだけいい？
木暮　何ですか？
吉村　……なんか……お話して。
木暮　は？
吉村　お話。

木暮　お話って？
吉村　いやいや、昔話とかさ。
木暮　……あのね、吉村さんは僕の可愛い息子じゃないんですから。
吉村　頼むよ。そしたら寝るから、きっと。してくれなかったら喋り続けるぞ、俺。
木暮　どういう脅迫ですか、それは。……（仕方なく）どんな？　どんな話すればいいんですか？
吉村　お任せコース。
木暮　そんなものありませんよ。
吉村　何か、面白い奴。適当に見つくろってさ。
木暮　（ため息をついて）……昔話……落語とかの話でもいいですか？
吉村　落語出来るの？　お前。
木暮　いや、落語は出来ませんけど、それをほら、普通に話すのなら、
吉村　それでいいよ。
木暮　……ええとね……じゃ、そこつの使者って話行きますね。
吉村　何、そこつの使者って？
木暮　今から話しますよ。ええ……ある男がね、
吉村　しーっ、もっと小さい声で。
木暮　……（小声で）ある男がね、昔ですよ……
吉村　ある男って？
木暮　武士です。武士なんですけどね、こいつがとてもそこつ者だったんです。おっちょこちょいってことね。
吉村　ハハハハハ。
木暮　笑う所じゃないですよ。
吉村　うん。
木暮　……でね、このおっちょこちょいな武士が使いを頼まれたん

ですよ。で、出掛けようとして馬にまたがりました。

吉村　ん？　ああ、馬に乗ったのね。

木暮　ええ、すると、なんとその馬には首がありません。そして男はお供の者に言いました。「これこれ、乗ったはいいが、この馬、首がないぞ」

吉村　どうして？

木暮　え。

吉村　どうして首がないの？

木暮　黙って聞いてて下さいよ。その内分かりますから。

吉村　おうおう、続けて。

木暮　男はお供の者に言いました。「これこれ、乗ったはいいが、この馬、首がないぞ」……するとお供の者が答えました。「何馬鹿なことをおっしゃってるんですか。後ろをみてごらんになって下さいよ、ちゃんと首はありますよ」

吉村　うん……。

木暮は話に調子が出てきた。

木暮　武士は後ろを見て、そしてまた驚いて言いました「あれ、この馬、ケツに首がついているぞ」。お供は「いやいや、あなた様が後ろ前、逆にお乗りなんですよ」……すると武士はしばらく考えて「ハハハ、まことにそこつな馬であるな」……そして続けて言いました。「これ、武士たる者、一度乗ったものを乗り換えるなどという間抜けなことは出来ぬ。さ、この馬の首を斬って付け替えろ」お供は「さ、いいからちゃんと乗って下さいよ」と武士を何とかなだめて乗せ直すと二人は出掛けました。

吉村は静かに聞いている。不安になった木暮は、

木暮　……面白くないですか？　これ。

しかし吉村からの返答はない。

木暮　吉村さん……吉村さん……？

木暮は懐中電灯で吉村を照らす。

木暮　……眠ってますね……すっかり。

木暮はため息をつく。そして懐中電灯で吉村の顔を照らして点けたり消したりしながら、

木暮　吉村さん。……吉村さん。……吉村さん。

と、暗闇から、

笹倉　木暮。

木暮　あ、びっくりした。（と、笹倉を照らす）あれ、笹倉さん、起きてたんですか？

笹倉が起き上がって、

笹倉　起こされたんだよ。お前に。何してるんだよ、寝ろよ。

木暮　ええ、でも……

笹倉　一人で変な話をぼそぼそ喋って。

木暮　いや、吉村さんに。

笹倉　吉村起きてるの？
木暮　今は寝てますけど。
笹倉　だったら寝かせといてやれよ。
木暮　ええ……。
笹倉　それと、むやみに懐中電灯点けるな。電池がもったいないだろう。
木暮　ええ、分かってます。

と、木暮が懐中電灯を消すのと同時に笹倉が懐中電灯を点けて木暮と吉村が寄り添っている姿を照らす。

木暮　なんですか？　もったいないですよ。
笹倉　……（寄り添う木暮達を怪訝そうに）何してるんだよ？
木暮　（吉村から離れて）違います、これは、違います。
笹倉　……ああ、なんか、目が冴えて来ちゃったじゃないか。
木暮　すいません。
笹倉　……とに。（懐中電灯を消す）
木暮　……すいません。

間。

笹倉　……続きしてくれよ。
木暮　え？
笹倉　馬の話してただろ？
木暮　ああ……
笹倉　責任取ってくれよ。
木暮　続きって、どこからですか？
笹倉　ええとね、俺が聞いたのは……お侍がなんか、お供の首を斬

り落とす所。

木暮　それまるで笹倉さんのオリジナルになってますよ。

笹倉　そっか……（木暮に嬉しそうに近づいて）なら、最初からしてくれ。

木暮　最初からですか？

笹倉　駄目？

木暮　駄目じゃないですけど……

と、吉村の声。

吉村　……あれ？　笹倉？

笹倉　あ、ごめん、起きちゃったか？

吉村　うん、あれ？　笹倉も起きてるの？

笹倉　木暮に起こされて。

吉村　ふうん。

木暮　ちょっと、待って下さいよ。何かが違いますよ。

笹倉　何が違うんだよ。

木暮　だっていて僕は吉村さんに起こされたんですから。

吉村　あ、お前、なんか、話……ああ、俺寝ちゃったの？

木暮　そうですよ。

笹倉　ごめんな。せっかく眠ってたのに……木暮がうるさいから。

吉村　いいよ、いいよ、気にするなよ。

木暮　僕ですか？　僕が悪いんですか？

笹倉　そうだろう？

上岡が起きて、

上岡　……お前達、うるさい。

三人　……。

上岡は懐中電灯で三人を照らす。

上岡　……何、そんなところで三人かたまってるんだよ？
笹倉　違う、木暮に起こされたんだよ。
木暮　僕、吉村さんに。
吉村　だって、なんか不安で……。
上岡　言い訳はいいから、もう。静かにしてくれよ。

と、懐中電灯を消して横になる。

間。

笹倉　畜生……木暮、お前……。（と、横になる）
木暮　……畜生、吉村……。（と、横になる）
吉村　畜生……上岡……（と、横になる）
上岡　（起きて）おい、吉村。何で、俺が畜生って言われないといけないんだよ？（と、吉村を照らす）
吉村　……冗談だって、今のは。
上岡　何だよ、冗談って。
吉村　……冗談は冗談でしょ。ごめん、寝るから。
上岡　……修学旅行じゃないんだからな。
吉村　ごめん。

上岡は自分の足元を照らしながら、

上岡　……とんでもないことしてるんだぞ、俺達は。なのにどうしてお前たちはそんな浮かれてられるの？　羨ましいよ。小学生

の修学旅行じゃないんだよ、これは。

吉村　……。

上岡　べちゃくちゃ喋ってさ……ホント修学旅行じゃないの。……はっきり言っとくけど、俺が頼んだんじゃないからな。みんな、自分の意志でこうなってるんだから。それは確認しといてくれよ。……俺は引率している先生じゃないんだから。これは修学旅行じゃないんだから。

プッと笑う木暮。懐中電灯で木暮を照らす。

上岡　おい、木暮……何笑ってるんだよ、お前は。

木暮　いや……修学旅行って喩えが、何度も……

上岡　だってそうじゃないか。そうだろう？　まさしくそういう状況じゃないか。……何だよ？　一々文句言うときにはあれか？　喩えまで工夫を凝らさないといけないのか？　な？

木暮　すいません。

上岡　ホント、みんなさ……いい加減にしてよ。

笹倉　上岡。

上岡　何？

笹倉　分かったから、寝ようよ。

木暮　そうそう、おやすみなさい。

上岡　な……何？　俺が悪いの？　なあ、俺が悪いの？　笹倉。おい、笹倉。

笹倉　寝ようって言っただけだろう？

誰も答えない。

上岡は懐中電灯でみんなを照らす。

吉村　……眩しい。
上岡　……。
吉村　それに電池、もったいないぞ。
上岡　……。

上岡、仕方なく懐中電灯を消す。
虫の鳴き声だけが……。

木暮　……他のみんな、大騒ぎしてるでしょうね、今ごろ……
笹倉　（かすかに笑う）
木暮　座長とか……どうしてますかね？
笹倉　どうしてるって……元気だろ、あの人は。
木暮　……ええ。でも、アレですか？　一人でショウとかやるんですか？　やれるネタもないんじゃないですか？
笹倉　まあなあ。
木暮　困ってるでしょうねえ……。
上岡　とにかく一週間だよ、一週間。……良かったじゃないの、こんないい場所も見つかったんだし。
吉村　一週間もこんな所で寝るのか……ああ、早く帰りたいなあ、日本に……。
木暮　だから帰れますよ。
吉村　うん。
上岡　もう、ホント、寝ようよ、おやすみ。
笹倉・木暮　……おやすみ。
吉村　……みんな寝ちゃうの？……ねえねえ。
三人　うん。

間。

吉村　……ねえ、日本に帰ったらどうするの？　座長にあやまる？
　それとも四人でやる？　ライブ……。

　　間。

吉村　（歌いだす）ランランラララン、ランランラランラン、ランララン、ランランラランラン……ドゥドゥドゥドゥドゥ、ドゥドゥッドゥドゥ。ようこそ来たね。
上岡　うるさいって。
吉村　だって……眠れないんだよ。

　　虫の声だけが闇の中に響いている。

第二場

　　次の日、午前中。
　　暗くて見えなかったその場所ははっきりと現れた。
　　元々作ってあったのか、誰かが後で作ったのか、鉄塔の途中部分に板が敷かれ柵で囲まれた空間がある。周りには鉄塔本来の階段が下から上まで続いている。上手奥は物置スペースとしてリュックやら袋が雑然と置かれている。
　　上手手前に風雨にさらされて汚くなったテーブルと四脚のイスが置いてある。そこに笹倉と木暮がいて……。

木暮　笹倉さん、それ、それ、絶対に間違えてますよ。
笹倉　いや、勘違いだって、お前の。

何やら言い争いをしている。

木暮　……だからね、聞いて下さいよ。
笹倉　聞いてるよ。
木暮　落ち着いて聞いて下さいよ。
笹倉　何？
木暮　（喋りだそうとする）
笹倉　勘違いだぞ、お前の。
木暮　……聞いてくれないもん、笹倉さんは。
笹倉　聞いてるよ。
木暮　笹倉さん、いっつもそうやって途中で話を切っちゃうでしょう？　最後まで聞いてから、もし、その上で反論があるならしてくださいよ。
笹倉　（少し苛立つ）分かったから、早く言えよ。
木暮　……いいですか？　あのTシャツは元々は僕のもんなんですよ。
笹倉　（遮って）だから違うって。
木暮　ちょ……聞いて下さいって。
笹倉　うん、何？
木暮　……いいですか？　僕のなんですよ。
笹倉　（遮って）だけど大きいだろ？　サイズが。
木暮　もう……。

木暮は話すのををやめてしまう。

笹倉　……。
木暮　そうやって絶対に聞いてくれないじゃないですか？

笹倉　だって回りくどいんだよ、お前。
木暮　……。
笹倉　で、何だよ？　聞くから。
木暮　……最後まで聞いて下さいよ。
笹倉　うん。
木暮　……あれは、僕のね、大学の時の同級生が新婚旅行でメキシコに行って、その土産なんですよ、元々。でもね、格好悪いから普段は着てなかったんですよ。
笹倉　それ……。
木暮　（笹倉を押さえて）で、去年、山形に行ったでしょう？　営業で。あの、すっごい太った女将さんがいた温泉に。笹倉さんと座長がタキシードショウをやって凄い受けた時ですよ。やったでしょ？タキシードショウ。
笹倉　それは覚えてるよ。
木暮　その時にパジャマ代わりに持ってったんですよ。で、吉村さんが、Tシャツが足りないって言ってたからそれを僕があげたんですよ。

笹倉は笑顔で聞いていたが……

笹倉　……でもさ、俺はさ、俺の親戚にもらったんだぞ。
木暮　だからそれが勘違いなんですよ、絶対に。
笹倉　だってさ、いいか？　俺のな、親戚な……詳しく言うと、母親の妹のだ、旦那だよ……血のつながってない叔父さんだよな。その人にもらったんだよ。
木暮　ウエルカムトゥーメキシコって胸に書いてあるでしょう？あれ。
笹倉　うん。

木暮　だから新婚旅行で……
笹倉　（遮って）その叔父さんさ、仕事で二年間、メキシコにいたんだよ。
木暮　……。

笹倉は余裕を持って、

笹倉　で、帰って来た時に、なんか変なサボテンのキーホルダーと一緒にあのTシャツをな、くれたの。俺、はっきり覚えてるもん、めずらしく。
木暮　……。
笹倉　ホント、めずらしく。
木暮　……（顔を引きつらせながら）で、笹倉さんが吉村さんにあげたんですか？　じゃあ。
笹倉　え。
木暮　あげたんですか？
笹倉　違うよ。で、俺が事務所に置きっぱなしにしてたのな、それをあいつが勝手に着てたの。
木暮　違いますよ。だって僕ははっきりあげたんですよ、この手で。
笹倉　帰ってきたら聞いてみろよ、吉村に。
木暮　（笑って）聞きますよ、聞きますよ、そりゃ。
笹倉　（笑って）うん、聞いてみろよ。
木暮　（笑って）ええ。

何だか、お互いに無性に腹が立つ。
しかしお互いに笑顔で見つめあっている。

二人　……（笑いあいながら）おう。

息詰まる空気。

笹倉　……（優しく）お前さ、人間には、勘違いが存在することを
　もっと分かっておいた方がいいぞ。
木暮　（心外といった感じで）ええっ？
笹倉　金とかさ、借りた方はすぐに忘れるだろ？　それは悪気があ
　ってとかじゃなくてさ、ホントに忘れるんだよ。
木暮　そんなこと知ってますよ。
笹倉　（笑顔で）じゃいいけどさ。
木暮　（笑って）ええ……。

もやもやとした間。

笹倉　……ま、聞いてみたらいいじゃないの？　吉村に。
木暮　聞きますって。
笹倉　……ま、お前の勘違いだと思うけど。
木暮　違いますよ。ホント、確信があるし、それだけは。
笹倉　だから勘違いなんてもんはみんなそうなんだよ。本人は確信
　もってるもんなんだよ。
木暮　ちょちょ、え？　え？　聞けばいいんでしょ？　吉村さんに。
笹倉　うん。
木暮　勘違いがどうとかじゃなくて……。
笹倉　ま、ま、そりゃそうだよ。
木暮　で、吉村さんが確実に僕から山形でもらったと言えば、証明
　されるんですよね？
笹倉　確実にもらったと言えばな。
木暮　はいはいはい。……ま、じゃ、それまではもうやめましょう

よ、その話。

笹倉　俺もそうしたいよ。

木暮　ですよねえ。……じゃ、握手しましょうよ。

と、互いに笑って握手。

木暮　（冗談を装う感じで）アレですよぉ、元々は笹倉さんが持ちだした話題ですよ。

笹倉　は？

木暮　ええ、いやいいんですけど。

笹倉　うん、まあな……ただ、俺は変なTシャツって知らない間にたまるなっていう、一般論をな、うん。……それをお前がなこの話に……ま、そういう大きい意味では俺が言いだしたということにはなるわな。すまん……握手。

木暮　……。

二人は一応握手。

木暮　（必死の笑顔で）笹倉さんもこう、負けん気強いでしょう？

笹倉　いやいや、俺、そんなことないよ。

木暮　ふんふんふん。

笹倉　おうおうおうおう。

と、階段から上岡が現れる。どこかから帰ってきたらしい。Tシャツ姿で首からタオルをかけている。いかにも大変だったと言わんばかりの空気を漂わせて。

上岡　ただいま。

笹倉　お、お疲れ様。
木暮　（同時に）ご苦労様でした。
上岡　うん。
笹倉　どうだった？
上岡　うん、昨日通ってきた道は大体分かったよ。
笹倉　そっか。
上岡　（リュックを下ろして）ただ、延々森だからさ、似たような場所ばっかりで、あやうく帰り道迷うところだったけど。
木暮　……吉村さんは？
上岡　ああ、水、汲んでくるって……凄いきれいな小川があったから。……すぐ戻って来るよ。
木暮　そうですか。
上岡　ああ、疲れた。

と、言ってその場でタオルで顔を拭く。後ろ姿。

木暮　……上岡さん。
上岡　ん？
木暮　そのTシャツってね、吉村さんからもらったんでしょ？
上岡　え？　ああ、そうだったかな。
木暮　くれる時、なんか言ってませんでした？
上岡　何が？
木暮　誰からもらったとか。
上岡　さあ、聞いてない。
木暮　そうですか……
上岡　このTシャツがどうかしたの？

と、言いながらこっちへ歩いてくる。胸には「ウエルカムトゥ

ーメキシコ」の文字。

笹倉　いや、それ、元々は俺のなんだよ。それを木暮が自分のだったって言い張るもんだから。

上岡　へえ。

木暮　なんですか、それ。僕のですよ、本当に。

笹倉　勘違いだよ。

木暮　（必死で）違いますよ。

笹倉　待てよ。……（笑って）落ち着けよ。

木暮　え？　笹倉さんアレでしょう？　吉村さんに確認するまでおいておくんじゃないんですか？

笹倉　お前が言い張るからさ。

上岡　……え？　これ、そんなにいい物なの？

笹倉　いやいや、違う違う。

上岡　ふうん。

木暮は階段を上がって行く。

上岡　どこ行くんだよ？

しかし、木暮は上っていってしまう。

笹倉　吉村を見に行ったんじゃないの？

上岡　（状況が飲み込めない）ああ……。来るのに、すぐ。……それに上から見てても分からないんじゃないの？

笹倉　いやいや、若いからあいつは。

上岡　うん。何してたの？

笹倉　……別に、ただ木暮と話してた。

上岡　（笑って）おいおい、ちゃんとしてくれよ、お前くらいは。
笹倉　（笑って）でも何することもないじゃないか。
上岡　そんなことないよ。
笹倉　え？　何がある？
上岡　そんなことは自分で考えてさ……少なくとも俺は今から地図作るよ。
笹倉　は？
上岡　この鉄塔からあそこまでのさ。一週間経って、戦闘が終わったら、あそこに戻るしかないんだから。
笹倉　うん、それはいいと思うけど……
上岡　そこどいてくれよ。地図作るし。
笹倉　いや、空いてるじゃないの？
上岡　（不満そう）うん……。
笹倉　どういうこと？
上岡　まいいや。
笹倉　いや、どけと言われればどくけどさ……（立つ）
上岡　（座る）

上岡は地図を書き始める。アピールするように。

笹倉　手伝おうか？
上岡　いいよ。分からないだろ？
笹倉　ここまで来た道だろ？
上岡　今、確認してきたから、俺がやるよ。
笹倉　ああ……

笹倉は変な動きをしながら後方に、

笹倉　……だけどさ、どうなるのかねえ？
上岡　（書きながら）んん？
笹倉　一週間後に戻ったとしてさ。
上岡　うん……。
笹倉　何かあるんじゃないの？　それ相応のさ。罰というか、ペナルティというか。
上岡　そりゃあるよ。
笹倉　どんなのかね？
上岡　……仕方ないじゃない、そんなこと覚悟して逃げたんだから。
笹倉　そうだよ。
上岡　違うの？
笹倉　そうだけど……いや、どういうのかって思っただけだよ。
上岡　まあ、殺される訳じゃないしさ。
笹倉　うん。
上岡　……人殺しの片棒担ぎたくはないよ、俺は。
笹倉　そりゃ俺だってそうだけど……。

吉村が現れる。手には水筒を下げている。

吉村　ただいま。
笹倉　あ、お帰り。
吉村　水、水、ホントきれいな川だったんだよ。
笹倉　ああ、昨日通ったよな。暗くて見えなかったけど、音は聞こえてたもんな。
吉村　聞こえてないよ。
笹倉　聞こえてたよ。
吉村　空耳じゃないの？
上岡　吉村。

吉村　（上がってきて水筒とカバンを置きながら）何？
上岡　あのさ、何本目の木だったっけ？　道っぽいものがあったのは。
吉村　えっと、七本目。
上岡　そうだそうだ。
吉村　ああ、もう、眠たくて仕方ないよ。結局昨日は全然眠れなかったんだよ、俺。
木暮　（上から降りてきて）吉村さん。
吉村　……おう。
木暮　あの、今、上岡さんが着ているTシャツってね、吉村さんがあげたやつでしょ？
吉村　そうだっけな。
木暮　ウエルカムトゥーメキシコって書いてあるやつ。
吉村　そうかな。
木暮　あれって、僕が、山形の営業先で吉村さんにあげたんですよね？
吉村　……ええ？　何？
笹倉　ほらほら……（吉村に）事務所にあったやつ勝手に着てたんだろ？
吉村　いや、どうだったかな。メキシコ？　（上岡に近づいて）これか？
木暮　ええ。
吉村　（上岡に）見せて。

上岡は真剣に地図を作っていたが、取りあえず胸を張ってTシャツを見せる。笹倉と木暮も近づいてくる。

吉村　これ、俺があげた？

上岡　そんなこと覚えてないよ。
吉村　こんなの俺、持ってたっけな……メキシコ？
木暮　だから、僕の友達の新婚旅行のお土産なんですよ。それを山形の温泉で僕が吉村さんにあげたんじゃないですか？
吉村　いや、もらってないよ、こんなの。
木暮　（必死になって）あげましたよ。山形ですよ、太った女将のいた所ですよ。やったでしょ、営業。
吉村　営業は、うん。笹倉がタキシードショウやった時だろ？　でも、もらってないと思うけどな。

笹倉は少しはなれて余裕の動き。

上岡　ごめん、俺、地図書いてるから。
吉村　うん……。

一旦、上岡から離れる。上岡は真剣に再び地図へ。

笹倉　事務所にあったやつ、お前が勝手に着てたんだよ、練習中に。
吉村　そうかな……。
笹倉　そうだって。お前、そういう所あるじゃないの。事務所に長い間置いてあると何でも勝手に使うだろ？
吉村　そんなことしないよ、俺。
笹倉　するって。ボールペンとか知らない間に使ってるし、後ライターとかもすぐ持っていくじゃないの？　そのTシャツもそのパターンだよ。
吉村　いや、そういう小物はな。でもいくらなんでも勝手にTシャツは着ないよ。
木暮　そりゃそうですよねえ？

吉村　おお。
笹倉　でもそのTシャツはそうだよ。
吉村　ええ？　（上岡に）ちょっと。

と、再び覗き込む。上岡は胸を張る。

吉村　いや、こんなの着てないよ、俺。
笹倉　着てたってお前。
吉村　だって見たこともないもん。
木暮　いや、着てたのは着てました。すくなくとも山形であげた時には着ましたもん、目の前で。「似合う？」とか言ってこれ着たまま、ふざけてたじゃないですか、吉村さん。
吉村　ええ？　……これだろ？　メキシコって……？
木暮　それですよ。
上岡　（吉村を払って）ちょう。
笹倉　俺ももっかい確認するわ、念のために。

と、上岡の胸を三人の男が覗き込む形になる。まるで小猫が親猫のおっぱいをもらっているような格好。

笹倉　ふんふんふん、間違いないな、叔父さんにもらったやつだよ。
木暮　違いますよ、このロゴに見覚えあるし。
上岡　……。
吉村　（生地をひっぱったりしながら）いやいやいやいや、絶対に知らない。俺はこれは着てない。
笹倉　着てたよ。
木暮　（声をそろえて）着てましたよ。
吉村　（必死になる）何だよ、二人して……絶対に着てないよ。だ

って、全く見たこともないしさ。
木暮　でも山形であげたことは覚えてるでしょ？　なんか、とにかくTシャツを。
吉村　もらったかぁ？
木暮　あげたじゃないですか。
上岡　ちょっと。（身体を反らせ再び地図に）
笹倉　……とにかくお前はこれ、着てたよ。それだけは俺も覚えてる。練習の時着ててさ、「あ、俺が叔父さんからもらったやつ着てるなあ」とは思った記憶があるし。それだけは、ホント、絶対。
吉村　ええっ？

と、またしても上岡の胸に顔を突っ込んで……。

木暮　ロゴ見て下さいよ、ちゃんと。
吉村　ロゴ見せて……着てたかなあ……良く見せてってば。
上岡　（払って）いい加減にしろよっ。
三人　……。

驚く三人。

吉村　いや、Tシャツ見てるだけじゃないの。
上岡　（怒って）地図書いてるんだよ。今行って来た所のさ、忘れない様にさ。それを何だよ。Tシャツがどうとか。
吉村　……いや、二人がさ。
笹倉　木暮がいい張るからだよ、俺は別にどっちでもいいのに。
木暮　あ……何、それ？　どういうことですか？
上岡　ねえねえ……俺達は遊びに来てるんじゃないんだよ。こんな

全然分からない場所でさ、別にキャンプしてるんじゃないんだよ。

吉村　何だよ、キャンプって……分かってるよ。

上岡　いい大人なんだから、認識してくれよ。今、俺達がおかれている状況というものを。な？　キャンプして遊んでるわけじゃないんだろ？　なのに……おまえ達の態度は、まるで、キャンプだよ。

間。

上岡　木暮。

木暮　はい。

上岡　何笑ってるんだよ？

木暮　笑ってませんよ。

上岡　腹の中で笑ってるだろう？

木暮　なんですか、それは。

上岡　あれか？　キャンプばっかり喩えとして出てくるなあとか考えてるのか？

木暮　……は？

上岡　そうか、そうなのか？

木暮　何も言ってないでしょう、僕？

上岡　でもな、まるで、そうじゃないか……三人ともさ、まるで小学生のアレじゃないか……だろ？　まるで、小学生のキャンプじゃないか？

三人はきまじめな表情で黙っている。

その気配に勝手に耐えられなくなった上岡はいきなりTシャツを脱ぎ始める。そして投げ捨てると上半身裸で座って地図を作

り始める。

笹倉　……上岡？

上岡　……いいよ、もう。

笹倉　聞いてたのに俺達……なあ？

吉村　うん。

上岡　暑いんだよ。だから脱いだの。

笹倉　ああ……ならいいけど。

木暮は投げ捨てられたTシャツを拾ってひろげる。

木暮　（笹倉に）間違いないです、僕のです。

笹倉　え？

木暮　……これは絶対……。

笹倉　しつこいなあ、違うってば。

木暮　もう、吉村さんがちゃんと覚えててくれれば、問題なく解決するのに。

笹倉　そうだよ。

吉村　俺？

二人　うん。

吉村　……ごめん。でもホントに覚えてないんだよ、俺も。

上岡　（背中で聞いていたが限界。立って三人に）……ちょっと座れよ。

笹倉　え？

上岡　真剣に話そうよ。

と、上岡は中央にしゃがむ。三人はその周りに座る。

木暮　……なんか中途半端な体勢ですけど。
吉村　うん、足が痺れるねえ。
上岡　（怒鳴って）そんなことといいじゃないか。何だよ、一々。
笹倉　……上岡さ、お前、ちょっと落ち着けって。
上岡　落ち着いてるよ、俺は。
笹倉　いや、なんか苛々してるじゃないの？　……とにかく一週間、あの駐屯地での噂が本当なら一週間で戦闘は終わるんだからさ。待つしかないんだよ、俺達は、ここで、じっと。
上岡　でもここだって安全とは限らないだろ？
笹倉　じゃどうするの？
上岡　たとえ一週間としても、ここにいていいのか、移動した方がいいのかさ。
木暮　え？　ここ出るんですか？
上岡　だってすぐ見つかっちゃうよ、こんなところは。
笹倉　でもこれ以上遠くには行かない方がいいって。あんまり駐屯地から離れるのは危ないよ。
上岡　分かってるよ、そんなことは。だから少しずつさ、調べてさ、地図作ってさ、いつでも戻れるようにしながら探すんだよ、いい所を。
吉村　足、痺れて来ちゃったよ。
上岡　……ちょっと地図見てよ。

上岡はテーブルのところへ。三人も続く。

上岡　……ここがさ、この鉄塔な、で、多分ここがヨードー駐屯地だと思うんだよ。で、この間は……
笹倉　え？　どれが鉄塔だって？
上岡　これだよ、書いてあるだろう？

笹倉　ああ、これ、鉄塔の絵か？
上岡　そうだよ。
笹倉　ごめんごめん、てっきりこれが鉄塔だと思った。
上岡　これは木だよ。ここにあるんだよ、一際大きな木が。
笹倉　これが、木の絵か……。
木暮　……だけど、なんか絵地図みたいですよね？
吉村　うん、小学校の社会科って感じだよな。「僕の町、私の町」っていう……。
木暮　いや、探検地図ですよ。宝の有りかが書いてある。
上岡　そんなこと仕方ないじゃないか、そんな正確な地図は書けないよ。
笹倉　まあ、伊能忠敬じゃないからな、上岡は。

三人は笑う。

上岡　おい、もっと緊迫してくれよ。真剣に喋ってるんだ、俺は。
木暮　だったらTシャツ着て下さいよ。
上岡　……だったら貸して。
木暮　はい（と、渡す）

上岡はTシャツを着る。

吉村　……どうでもいいけど、座って話そうよ。
木暮　じゃ（中央に）持っていきましょうよ。
吉村　うん。

吉村と木暮はイスを中央に運ぶ。笹倉とTシャツを着終わった上岡はテーブルの端を持って中央へ運ぶ。

笹倉　……（テーブルを持ったまま）上岡さ、お前、昨日から突然さ、なんか、座長に似てきたよ。
上岡　え。
笹倉　座長ってなんでも大げさじゃないか？　大げさに慌てたり深刻ぶったり……お前もよくバカにしてたじゃないの。
上岡　そうだよ。
笹倉　なんか、似てるよ、今。
上岡　似てないよ。
笹倉　……なら、いいけど。
上岡　みんながノウテンキ過ぎるからさ、状況が状況なのにさ……。
笹倉　考えてるよ、俺達だって。
上岡　じゃいいけど。
吉村　テーブル置いたら。

笹倉と上岡はテーブルを中央に置く。

木暮　座ります？　続きあるんですよね？
上岡　……いいよ、もう。
木暮　どうしてですか？
上岡　……とにかくアレだよ。ここにいていいのかどうか不安なんだよ、俺は。この鉄塔だって、なんか不自然だしさ。

みんな鉄塔の上を見上げる。眩しい。

上岡　だろ？
笹倉　……地図はいいじゃないの、作ったら。
上岡　うん……。

木暮　四人しかいないんですから、仲良くやりましょうよ、とにかく。
上岡・笹倉　……。
吉村　……ねえねえ、日本に帰ったら四人で絶対にやろうよ、ライブ。自分たちで納得出来るやつをさ。
木暮　ええ。
吉村　一からでいいから、劇場借りてさ。
笹倉　うん……。
吉村　いいじゃないの、そしたら上岡が座長やれば。

吉村はズンチャズンチャとリズムをとりはじめる。

上岡　そんなことはいいよ。……でもそう考えたら、あれだよな。事実上は「コミックメン」解散ってことだよな？　座長いないし。
木暮　少なくとも名前変えないと。

三人は吉村が歌っていることに気づく。

三人　……。
吉村　……ズンチャズンチャズンチャズンチャズンチャ……ちょっと。
木暮　何ですか？
吉村　オープニングオープニング。
木暮　こんなところでどうしてやらないといけないんですか？
吉村　いいじゃないの。景気づけだよ、景気づけ。ズンチャズンチャ……やろうよ。……ズンチャズンチャ……ほら。
三人　……。

吉村　やってよ。……ズンチャズンチャ……

みんな仕方なく「コミックメン」のオープニングテーマを。

四人　（低いトーンで暗く歌う）ランランララン、ランランララン、ランランララン、ランランララン……ドゥドゥッドゥドゥ、ドゥドゥッドゥドゥ。

木暮　ようこそ来たね。

笹倉　お久しぶりだね。

四人　コミックメンズ、ショウウゥゥ。

しかし。

木暮　……景気つくどころか余計に淋しくなったじゃないですか？

吉村　うん……でも絶対やるよ、俺は。日本に帰ったらさ。

上岡　……とにかくさ、こうして逃げてさ……自分たちを曲げずに済んだじゃないの。ま、一回は変なショウをやっちゃったけどさ。

笹倉　変なショウだったよな、確かに。

みんな笑う。上岡はテーブルの周りをまわりながら、

上岡　……駐屯地でのショウが始まってさ、座長が前説始めた瞬間だよ、もう、えらく媚売った感じでさ。

笹倉　（後に続いて歩きだす）ま、あれはな、虫酸が走ったよ、俺も。

木暮　（笹倉に続いて）ですよねえ？

笹倉　慰問向けに作ったやつの方が俺達の持ちネタより受けてさ…

…

木暮　あんな変な風刺コント。

吉村　（同じく続いて）何やっても馬鹿笑いしやがってさ。

上岡　そりゃそうだよ。別に俺達のショウを本当に楽しみにしてる訳じゃないんだから。

木暮　……（止まって）上岡さん、得意の蛇のネタが全然だったから悔しいんじゃないですか？

上岡は逆方向に歩き始める。みんなも従う。

上岡　いや、そう、ちゃんと見てる客だったら蛇のネタが一番来るはずだしな。……（止まって）ま、笹倉のタキシードショウよりはましだったけど。

笹倉は更に逆まわりを始める。みんな従う。

笹倉　受けたよ、タキシードショウは。ま、あんな所で受けたくはないけど、でも一応笑いはあったよ。

上岡　いや、受けてなかったよ。

笹倉　結構来てたって。

木暮　受けてませんでしたよ。

笹倉　（止まって）じゃ、木暮の「爆発じいさん」のネタはどうだよ。

木暮は再び逆まわり。みんな従う。

木暮　いいんですよ、あれは。あんな所で受けたくないんですよ。

笹倉　タキシードショウの方があっただろ？　反応。

木暮　いいですよ、それは認めますよ。
上岡　あ、木暮の爆発じいさんが受けなかったのなんてはじめて見たよ、俺。
笹倉　俺も俺も。
吉村　……俺の階段マイムも全然だったしさ。

輪が崩れていく。吉村だけが取り残される。

吉村　……？……いや、階段の一人マイム。全然だっただろ？　階段のマイム。

間。

笹倉　……吉村のあれは……
吉村　何？
笹倉　いや……日本でも受けなかったじゃないの？　大体。
吉村　受けるよ、いつもは。
木暮　……あれ……どういうことですか？
笹倉　そうそう、前々から疑問だったんだよ。何が面白いの、あれ？
木暮　笹倉さんも？　いや、実は僕も分からないんですよ。
上岡　……なんだ、みんなそうだったのか？　いや、俺だけ理解出来てないのかと思って不安だったんだよ。
木暮　意味分かんないですよねえ、あれ。
上岡　一人で階段を行き来するだけだしな。
笹倉　うん。
吉村　……どうしてだよ？
木暮　どうしてって。
笹倉　だって、今だから言いますけど、ホント、アレ、もう一つ、

なんというか……面白くないよ。
木暮・上岡　うん。
吉村　面白いよ。見る人が見れば。
上岡　見る人……？
笹倉　あれ……どういうこと？
吉村　いや、色んな人のさ、会社で嫌なことがあった人とかデートに行くＯＬとかそういう色んな人の階段ののぼり方の違いをやってるんじゃないの。
笹倉　それは分かるんだけどさ。
他　うん。
吉村　面白いだろ？
笹倉　それは分からないんだよ。
他　うん。
吉村　だから（と、立って階段に行き）階段の歩き方だけでも、人の様々な状態が見えるっていうことだよ。……例えば……大事な入学試験でその時間に遅刻しそうな人が会場の階段を上るところだったら……こうだろ？
他　うん……。

と、階段を駆けあがっていく。

木暮　……ただ走ってる……だけですよねえ？
笹倉　うん。
吉村　（上から声）次は……
上岡　やりはじめちゃったぞ、おい。
吉村　（上から声）次は……二十歳年下の不倫相手に失恋した中年サラリーマンがふられた喫茶店から出てきた、階段のおり方。

と、肩を落としておりてくる……そのまま下へ。

木暮　トボトボおりてるだけですよねえ。
笹倉　そう。
吉村　（下から）電車に遅れそうな人が駅の階段を上る所。

と、駆けあがって上に。

上岡　おい……さっきの試験の遅刻とどこが違うんだよ？
吉村　（上から）定年退職した帰り、会社の階段。
他　うん。

肩を落としておりてくる。

木暮　それ、失恋じゃないですか……

と、吉村は途中で立ち止まって上を見上げる。

笹倉　あ、（笑って）会社への未練出してるんだよ、この顔。
木暮・上岡　ああ。
吉村　……分かった。じゃ、もっと微妙なのやるよ。謎の男が階段をあがって来るやつ。

と、吉村はそのままおりていく。

木暮　おりていっちゃいましたよ。
吉村　新作なんだろ？
笹倉　……でもひどいな、やっぱり。

木暮　なんか見てて、血管の中つめたーい感じになりますよねえ。
上岡　アレだよ。一回富山の老人ホームで受けたんだよ。それに、あいつが自分で考えたのってこれしかないからさ。
木暮　あれ、吉村さん？

吉村はあがってこない。

笹倉　まだ？

と、異常にゆっくりとした足取りで吉村が現れる。

三人　おう。
上岡　あ、それ、見たことない。
笹倉　それは何？　タイトル。

しかし吉村は一言も発せず……。

上岡　吉村、タイトル何って？
木暮　謎の男で微妙なんですよ。

と、三人は笑うが……続いて階段から男が顔を出す。
見つめる吉村と三人。

その男はゆっくり上ってくる。制服に身を包み、大きなリュックらしきものを背負っている。兵士だ。

全員　……。

身体が硬直する。兵士も緊張した面持ちで……。

兵士（城之内）　……慰問に来てた方達ですよねえ？

間。誰も答えない。

城之内　ヨードー駐屯地から脱走された……。

間。

城之内　僕……城之内です。

緊張した間。

城之内　……（意外と軽いトーンで）こんにちは。

他　……？

城之内　こんにちは。

他　……こんにちは。

四人は城之内から離れ、テーブルへ座る。

間。

上岡　……何ですか？

城之内　……探してました……あなた方を……。

暗転。

第三場

それからややあって……。テーブルが中央に寄せてあり、そこには城之内を中心とした座が出来ている。上岡だけがいない。

城之内　……だからですね、バレてるんですよ、完全に。
笹倉　でも……どうして連れ戻しに来ないんですか？
城之内　それが分からないんですよ。でもみんなこの鉄塔にいるだろうって噂はしてましたから。
笹倉　ああ。
城之内　だから僕もここを目指したんですけど。
木暮　……ここにいるのはまずいってことですか？
城之内　いや、でもね、駐屯地からこれ以上離れると危ないと思いますよ。全部森でしょ？　どこにゲリラがいるか分からないから。
吉村　怖いよ、ちょっと。
木暮　ですよねえ。……もっと詳しく教えて下さいよ。
城之内　詳しくですか？
木暮　ここに地図、ありますから。
城之内　これは？
木暮　（上を指して）上岡さんが作ったんですけど。
城之内　……（地図を見て）ええ、この地図で行くと、ここが鉄塔だから、こっちは大丈夫、あれ？　これどうなってるのかな……こっちが駐屯地で、ああ、こっちが危険区域と呼ばれて……
笹倉　あ、鉄塔はこっちです。それは大きな木だって。
城之内　ああ、そうか……じゃ、鉄塔がここだとすると……ん？　川がこんな所に……あったっけな……違う……違うな。……あの、すいませんけど、これは全然役に立ちませんねえ。方角がメチャクチャですし、この地図。

三人　ああ……。
木暮　そうですか。
笹倉　まあ、伊能忠敬じゃないから、上岡は。

笹倉達は笑う。間。

城之内　……（真顔で）何ですか？
笹倉　いや、すいません、冗談です。
城之内　……伊能忠敬って誰ですか？
笹倉　あれ、知りませんか？
城之内　ええ。
木暮　江戸時代に日本中を歩き回って地図作った人ですよ。かなり正確な。
城之内・吉村　へえ。
木暮　吉村さんも知らなかったんですか？
吉村　ん？　うん。
城之内　イノウタダタカは地図か……。江戸時代……。
笹倉　……？
城之内　あの……先に言っておきますけど……僕、とにかく 物を知らないんです。ホント、知らないんです。だからみなさんと会話が楽しめるかどうか……。
笹倉　あ、そんなことは、別に。
城之内　でもみなさんはああいうショウとかやってらっしゃる方達だから、色々会話も……アレに……何かに富んでるんじゃないかと。
木暮　ウィットですか？
城之内　そう、ウィットに。
吉村　大丈夫、そんな心配はいらないから。

城之内　……ウィットか……特に英語が全然でね、高校の時に授業で……象のことはって聞かれて「ズー」って答えて……笑われました。
笹倉　はいはい……。
城之内　虎のこともジャガーって答えたんですよ。豚のこともポークって言ったし。
笹倉　もう、いいですから。そんな細かい過去のエピソードは。
城之内　すいません。
吉村　え？　象は何ていうの？
木暮　エレファントでしょう？
吉村　虎は？
木暮　タイガー？
吉村　ズーって何？
木暮　ズーは動物園でしょ？
吉村　ふんふんふん。
木暮　（城之内に）ここにもっとひどい人いますから。
笹倉　いや、城之内さん……今の状況を説明して下さいよ。
城之内　ああ……僕もあんまり詳しくは聞かされてないんですよ。ただ、みなさんの聞いた噂どおり一週間後に大規模なゲリラ一掃作戦があるって、それで終わらせるって……。
吉村　一週間で終わるんですか？
城之内　噂ですけど、多分そうなんだと思います。だってわざわざああいう、みなさんのような慰問のショウを呼んだりしたってことは、この後に何かあるんですよ。前にもなんか演歌の歌手の人が来て、その後大きく動いたから。
吉村　帰りたいよ、もう、日本に。なんで、こんなことになってるの？
笹倉　とにかくここを動かない方がいいんですよね？

城之内　と、思いますけど……ええ、そう思います。
木暮　この鉄塔にいれば大丈夫ってことですか？
城之内　まあ……戻るわけにも進むわけにも行きませし。ここがぎりぎりの場所というか……そうですね、開き直ってここにいるしかないですよね。
木暮　なんか飛んで来てドカンてことはないんですか？
吉村　ドカンって何？
笹倉　それはもうありませんよね？
城之内　いや、もう、ホント、おっしゃる通り表向きにはほとんど戦争は終わってますし……向こうは組織だった軍隊ではないんです。一部の兵隊が抵抗してるだけですから。

と、上岡が階段から顔を出して、

上岡　（何だか苛々とした調子で）どうだって？
笹倉　ん？
上岡　どう？
木暮　何か大変なことになってますよ。
上岡　大変って？
笹倉　……とにかく動かない方がいいってさ。
上岡　うん……吉村。
吉村　ん。
上岡　代わって。
吉村　どうして？
上岡　いや、俺も話聞きたいからさ。
吉村　まだ、一時間経ってないよ。
上岡　……思ったんだけど、あんな所に一時間いるのは辛いぞ、ちょっと。三十分交代にした方がいいよ。

木暮　上岡さんが言いだしたことじゃないですか？
上岡　でもあがってみて、あんなに辛いとは知らなかったんだよ。
笹倉　だから見張りなんかやめればいいじゃないの？
上岡　どうして？　……（城之内に）いつ追いかけてくるか分からないんでしょ？
城之内　いや、いつって……追いかけてくるかどうかは分かりませんけど……
上岡　いや、一応見張っておいた方がいいよ。三十分交代にしよう。次は吉村だろ？　代わってくれよ。
吉村　……うん……。

吉村はいやいや立って階段の方へ。

木暮　……（笹倉に笑って）腑に落ちないまま階段をあがっていく人ですね？
笹倉　ああ、あれくらい巧くやれればな。
木暮　（笑う）

上岡は吉村の座っていたイスに。

城之内　……（真顔で）何ですか？
木暮　いや、吉村さんの持ちネタなんですよ。やったでしょ？一昨日のショウで、階段マイムとか言って……
城之内　ああ……はい。あれは面白かったです。
木暮・笹倉　え。
城之内　色々な人の階段での様子をやるやつでしょ？　ええ。
木暮　どこが？
城之内　どこがって……ああ、そうだなあって思いました。歩き方

一つでその人の色々な状態が見えるっていうのが……アイデアがいいって感じました。……すいません、多分頓珍漢なことを僕は喋ってるんだと思うんですよ……でも素人なんで、うまく表現出来ないんです。でもなんていうか面白いっていう、笑える面白さではなくて……。

上岡　城之内さん、いいですよ、そんな話は。あの、具体的に僕たちはこれからどうすればいいかってことなんですよ。

城之内　ああ……

笹倉　ここにいるしかないってさ。

上岡　そうですか。

城之内　……あ、すいませんけど、お水、いただけますか？　あればですけど、僕来る途中に全部飲んじゃって。

木暮　ありますよ。

城之内　すいません。

木暮は吉村が川から汲んできた水を渡す。

笹倉　……さっき僕も飲みましたけど、おいしいんですよ。

城之内　（フタを開けて）どこのですか？

木暮　近くの川で、吉村さんが汲んできたんですけど。

城之内　じゃ、いただきます……えっと……

木暮　嫌じゃなかったらそのままいっちゃって下さい。

城之内　はい。

と、城之内はラッパ飲みをする。

笹倉　やっぱり水道水とは違うよなあ。

木暮　僕まだ飲んでないんですよ。

笹倉　飲んでみろよ。
木暮　はいはい。
上岡　え？　そんなにおいしいの？　俺も俺も。
笹倉　おいしいよ。なんか水が柔らかいっていうかさ。
上岡　へえ。

城之内は水筒を口から離して……。

城之内　……。
笹倉　おいしいですよね？
城之内　ええ……。
木暮　よかったら次、僕に。
上岡　次、俺な。

城之内は不可解な笑み。

他　……？
城之内　いや……この水筒って、重たいですね？
他　……ん？
城之内　重たいっていうか、重量があるっていうか、目方があるっていうか……
木暮　表現違うだけで同じこと言ってますよ。
城之内　すいません。……いや、重たいから、これはてっきり入っている水の重さだと思ったもんですから……こう、たっぷり入っていると感じたもんですから。
笹倉　何？
城之内　……なくなっちゃいました。全部飲んじゃったみたいで。つまり僕が飲み干しちゃったっていうか。

他　ああ。
城之内　汲んできますよ、僕。
木暮　いいですよ。そしたら僕が行って来ますよ。……（上岡に）近いんですよね？
笹倉　近いよ。昨日ここに来るときに音聞こえてただろう？
上岡　（少し嬉しそうに）地図見ろよ。ちゃんと書いてあるから。な？　地図作るのは必要だろ？　たとえ一週間のことでもさ。
木暮　これ……ですよね？
上岡　うん。
木暮　いや、（城之内に）ねえ？
城之内　は？
上岡　何？
木暮　いや、この地図、アレなんですよ。方角がメチャクチャだって。
上岡　え？
木暮　城之内さんが見て、そういう風に……
上岡　（城之内に）そうなんですか？
城之内　ああ……。
笹倉　まあ、ほら、なんていうの？　上岡は伊能忠敬じゃないからさ。
城之内　ええ、すいません。たぶんです、たぶん。でも僕が間違っているのかも知れないし。僕もあの……イノウタダではないですから。
上岡　イノウタダ？
木暮　とにかく近いんですよね？　行って来ますよ。
上岡　待て待て。それもさ、ルールにしようよ。水は絶対に必要なんだし。見張と一緒で交代にしてさ。
笹倉　いいじゃないの、そんなことしなくたって。なくなった時に

誰かが汲みに行けば。
城之内　僕が行きますよ。飲んじゃったの僕だし。
上岡　決めようよ。そしたら楽じゃないの。もちろん、城之内さんも含めてさ。
城之内　もちろん、ええ。
笹倉　なんか、上岡はさ、決めたがるよねえ……そういうとこが座長とそっくりだって言ってるんだよ。
上岡　みんなが必要としてることなんだから、ルールにしたっていいじゃないの。別に不合理なこと言ってないよ、俺。
木暮　分かりました。ルールでいいですよ。で、まず僕が汲んできますよ。それでアレでしょ？　後は見張りと同じ順番でいいじゃないですか？
上岡　……うん……いいよ、それで。
城之内　すみません、僕が飲んじゃったばっかりに。
上岡　どうせ必要なことですから。

と、階段から吉村の声。

吉村　何、揉めてるの？
上岡　お前、見張りは？
吉村　淋しいよ、あんな所に一人でいるのは。
上岡　それが三十の男の言うことか？
木暮　……吉村さん、水ってどこの川で汲んできたんですか？
吉村　近く近く。すっごいきれいな小川があるんだよ。
木暮　なくなっちゃったんですけど。
吉村　あ、まだ、あるよ。俺のリュックに。全部で三本汲んで来たから。
笹倉　なんだ、あるのか。

上岡　お前、見張りだろ？
吉村　分かったよ。後、何分？
上岡　上がったばかりだろ？　三十分だよ、とにかく。
吉村　もう……。

と、吉村は渋々あがっていく。木暮はイスに座る。

笹倉　木暮、お前も飲んで見たら？　水。
木暮　ええ。ラッキーラッキー。（と、吉村のリュックに）
上岡　おおお木暮……その前に、汲みに行って来たら？
木暮　あるんですよ、後、二本。
上岡　でも、どうせいるんだからさ。それに当番にしようって今話しただろ？
笹倉　……いいんじゃないの？　あるなら、そんなわざわざ行かなくても。
木暮　ええ、二本も残ってますよ。
笹倉　だろ？　行かなくていいよ。
上岡　……（笑ったまま）行って来た方がいいって。
笹倉　（不思議そうな顔して）どうして？
上岡　すぐなくなるし。
笹倉　（笑って）ならないでしょう？
上岡　（木暮に）新しいの汲んで来てよ。
木暮　ああ……ま、いいですけど。
笹倉　（笑いながら上岡に）ちょちょ、どうしてどうして？
上岡　何？
笹倉　いや、水、あるんだから、いいじゃないの。
上岡　交代で汲んでくることにしようよ。木暮からって木暮は自分で言ったんじゃないの。

笹倉　だからなくなったら木暮が汲みに行ったらいいでしょう？
上岡　待ってよ。なんで？　反対に聞くけどなんで汲みに行くの駄目なの？　汲みに行くだけだよ。
笹倉　駄目じゃないけど、合理的じゃないじゃない？
木暮　行って来ますよ、僕。近くなんでしょ？

と、空になった水筒を取って立つ。

笹倉　行かなくていい。
木暮　……。
笹倉　バカらしいじゃないか。
上岡　いいよ、行って、木暮。
笹倉　（木暮に）待って待って。いいって、行かなくて。
木暮　でも……。
笹倉　だってあるんだろ？　後二本。
木暮　ええ、って、吉村さんが。
上岡　……笹倉、何？　どういうこと？
笹倉　いや、おかしいでしょう？　そんな変なルール。
上岡　ん？　ん？　ん？　何が、変なルールなの？
笹倉　いや、水があるのに、決まりだから行くって変でしょ？
上岡　どうして？　どうして？
笹倉　そうでしょ？
木暮　いや、僕、行きますよ。
城之内　あの、飲んじゃったの僕ですから……。
笹倉　……。
木暮　いいんでしょ？　汲んできたら。
笹倉　……うん……。
上岡　（木暮に笑って）いや、いいよ、行かなくて。

木暮　……え……。
上岡　（笑って）行かなくていいよ。笹倉、それでいいんだろ？
笹倉　（笑って）おいおい。
上岡　行かなくていいよ。あ、城之内さんすいません。なんかゴチ
　ヤゴチャと。
城之内　ええ……でも、飲んじゃったの僕だから。
笹倉　……（木暮に）汲んできたら？
木暮　え。
笹倉　（チラリと上岡を伺って）その方がいいみたいだし。
木暮　ああ……。
上岡　（木暮に）おいおいおいおい、いいよいいよ。……（笹倉に）
　どうして汲みに行くの？
笹倉　その方がいいんだろ？
上岡　別に、だって汲みに行かなくていいんだろ？
笹倉　（笑って）お前がよくなさそうだし。
上岡　（笑って）俺はいいって言ってるじゃないの？
笹倉　（笑って）言ってないじゃないの、空気が。
上岡　え？　何？　空気って……（城之内に）いいって言いました
　よねえ？　僕。
城之内　ああ。
上岡　木暮いいよ、置いとけよ。……後で俺がいってくるよ。
木暮　……。
笹倉　（怒って）分かった。いいよ、汲んでくるから。

と、笹倉は木暮から水筒を奪う。

上岡　（立って）待てよ。何だそりゃ？　何？　お前が汲んでくる
　って一体全体。どういう意味？

笹倉　いいだろ？　ほっといてよ。
上岡　でもお前が汲んでくるって……おいおいおい。
笹倉　（笑って）もう、うるさいよ、お前。
上岡　は？（笑って）全然分からない。うるさい？
笹倉　いいよ、汲んでくるから俺が？
上岡　説明してくれよ。さっぱり筋が通ってないじゃないの？
笹倉　何かお前の態度がさ、そうなんだよ。
上岡　態度？……何を言ってらっしゃるの？
笹倉　勘弁してよ、もう。汲んで来ればいいんだろ？
上岡　……貸せよ。……（と、水筒を奪って）俺が行くよ。
笹倉　は？
上岡　言いだしたのは俺なんだろ？　そういう空気なんだろ？　だったら俺が行くよ。
笹倉　いいって、俺が行くから。
上岡　変なルールなんだろ？　水汲むのは。
笹倉　そんなこと言ってないよ、貸せよ。
上岡　いいって言ってるだろう？
木暮　あの、僕の当番なんでしょ？　僕が行きますから。

三人とも無言でポリタンクを奪い合う。
無言ながら壮絶なバトル。
城之内は立ち上がって、何とかしたいとは思うが、遠慮があって中に入っていけない。

上岡　離せって。
木暮　なんでこんなことで揉めるんですか……。
上岡　いいよ、もう、どいつもこいつも。

上岡はタンクを奪い取るとそれを持って階段を下りていってしまう。

笹倉　……なんじゃありゃ。
木暮　ええ……。

二人は城之内が困っているのに気づく。

城之内　僕が飲んじゃったばっかりに……すいません。
笹倉　いえいえ。
木暮　……上岡さん、なんであんなに苛々してるんですか？
笹倉　さあ？

と、階段から吉村の声。

吉村　何、揉めてるの？
木暮　なんか、上岡さんが、水のことで……。
吉村　水？
城之内　僕が飲んじゃったから、全部。
笹倉　……（吉村に）降りてきたら？
吉村　うん。もう、耐えられないよ、俺。大体高いところ苦手なんだよ。
木暮　吉村さん、暗いのも駄目なんでしょ？
吉村　うん。でもいいのか？　上岡は？
笹倉　水汲みに行ってるよ。
吉村　また、怒るもん、あいつ。
笹倉　いいって気にしなくて。（城之内に）見張りなんか立てなくても大丈夫ですよねえ？

城之内　ええ、と、思いますけど。立ててたって同じですから。
笹倉　ですよねえ。
木暮　あ……吉村さん。
吉村　ん？
木暮　城之内さんがね、吉村さんの階段マイム面白かったって。
吉村　（驚く）え？　ホント？
城之内　ええ……
吉村　どういうこと？

吉村は駆け降りてくる。

城之内　どういうって……アイデアがいいっていうか……。
吉村　ふんふんふんふん。
城之内　でも、気に入っちゃって。
吉村　アレだよ。この前ショウではやらなかったバージョンがまだ二十種類くらいあるんだけどね、ホントは。
城之内　そんなにですか？

笹倉はみんなのいない方（上手の端）へ行って景色を眺める。

吉村　うん。大変だったんだよ。それだけ作るのは。……いつも街歩いて観察してさ、研究してさ。色んな人をノートに書き留めては家でやってみるんだよ。大体……そうだな、一つ完成するのに五日はかかるね。産みの苦しみって言うかさ。
木暮　アレ、そんなに手間ひまかかってるんですか？
吉村　そうだよ。当たり前じゃないの。
笹倉　（振り返り）吉村はアレだよな……ホント、好きなんだな、こういうの。

吉村　まあねえ。昔から憧れていたというか……。ようし、なんか披露しようかな。
笹倉・木暮　え。
吉村　いや、気に入ってもらったし……。
城之内　いや後で。
吉村　……。
城之内　……みなさん、自分で考えるんですか？
木暮　一人でやるのに関してはそうですね。全体でやるコントみたいなものは誰かが書いたり、ま、みんなでやりながら作ることもありますけど。

吉村はなんかいいことを思いついた。

吉村　あ……ねえねえ、ここにいる間に何か一つ作ろうよ。一週間あるんだったら。……城之内さんも入れてさ。
城之内　僕はそんな、めっそうもない、無理ですよ。
吉村　大丈夫だって、僕が教えるから。何か共通のセンスあるみたいだし。
城之内　いや、学芸会とかでも木の役とかそういう背景しかやったことないですから。
吉村　関係ないよ。
城之内　一番いい役でも小鳥止まりで……。
木暮　小鳥って……何だかよさそうな役じゃないですか？
城之内　いや、小鳥六十三って役でした。
木暮　かなりの小鳥が出てくるんですねえ。
城之内　ええ、「百一羽の小鳥」という、百一匹ワンちゃんをベースにしたアレで。
吉村　だから関係ないって。僕なんかアレですよ。大体舞台の下に

座ってソプラノ笛とか吹く係でしたよ。
城之内　はあ。

随分と陽が傾いてくる。木々を通して夕日が櫓に差し込む。

吉村　だから大丈夫。一緒に何かつくりましょうよ。
笹倉　だけどやることあるのかねえ……。
他　？
笹倉　それ、つくったとして。
他　……。
笹倉　……（景色を見ながら笑って）なんか、大変なことしちゃったのかもなあ。
木暮・吉村　ん？
笹倉　いや、深く考えもしないでさ。

間。

吉村　……ちょっと、笹倉がそんなこと言うなよ。
笹倉　ん？
吉村　お前がそんなこと言ったら不安になるじゃないの。
木暮　そうですよ。僕たちは迷ってるときに笹倉さんが逃げようって言ったからついてきたんですから。
笹倉　（笑って）おい、俺のせいか？
木暮　笹倉さんのせいとは言ってませんけど……。
吉村　元々はアレじゃないの。上岡がさ、やたら何かまくしたててさ……それに乗せられちゃったんだよ、俺。
木暮　そうですよね。一週間じっとしてれば何とかなるって、ねえ。
笹倉　……でも嫌だっただろ？　あんなショウをやらされるのはさ。

二人　……。
木暮　ま、プライドがありますからね、僕たちにも。
城之内　……どうして引き受けたんですか？　慰問のショウなんか。
木暮　座長と事務所が金もらえるからって喜んで……帰ってからの条件もよくなるとか言って。
城之内　ああ。
木暮　アレ……城之内さんは……どうして逃げて来たんですか？
城之内　え……いやだったんですよ。とにかく。怖かっただけかも知れませんけど……でも、人を殺すなんてこと、嫌だったんです。幸い僕はここに来てからまだ一回も戦闘に出たことないんですよ。でも多分一週間後のアレには出ないわけにはいかないなと思ってたから。
他　……。
城之内　……宿舎でね、みんな自分がいかにどうしたこうしたって、こんな風に殺したとか……そういう自慢話するんですよ。もう、喜々とした表情で。で、僕にはまだそういう経験がないから、みんな僕に話すんですよ。いい聞き手なんですね、僕は。経験者同士だとみんな自分の話したいだけで、気持ち良く自慢話出来ないんでしょうね。それ聞いててなんだか実感が湧いてきて。
木暮　ああ……。
城之内　で、昨日の夜、慰問のショウが中止になって、みなさんが逃げた噂を聞いて……僕も衝動的に……。
木暮　いや、心強いですよ、なんか。食料だってあんなに持ってきてくれて。
城之内　でも後先考えずに僕も飛び出しちゃったから……終わってから、どうなるのか……日本に帰れたとしても、ねえ？　ちょっと前とは雰囲気が全然違いますから。
笹倉　確かにたった一年であんなに変わっちゃうなんて、びっくり

ですわな。
木暮　知らない間にねえ。アレよアレよという感じでしたけどね。
城之内　ええ……。隊の中でも完全に今はやれやれという感じですし。
吉村　……ねえ、いいじゃない。……とにかく帰ったらやろうよ、ライブをさ。ここでつくったネタも含めてさ。

と、遠くで機関銃の連射音。軽いタンタンタンという音。音のする方（下手）に駆け寄る四人。

吉村　……何？　何ですか？　今の音は？
城之内　機関銃の音です……ね。
吉村　ちょ、ちょ、嫌だよ、ちょっと。
木暮　近いですか？
城之内　いや、かなり遠いとは思いますけど……アデ山の方ですね？
吉村　アデ山ですか？
城之内　ええ……。

音、再び。遠くで。

吉村　わわわわ。
木暮　何してるんですか？　アレ今撃ち合ったりしてるんですか？
城之内　そうですねえ。
吉村　……こっち来ない？　あのままここに。
城之内　ま、あれくらい離れてれば。
木暮　……初めてですよね、ああいうの。実際にきいたの。
吉村　うん。何だよ、もう。

笹倉　……何か、現実感のない音ですねえ。
城之内　……みなさんが来る前は、一時期頻繁にありましたよ。ニュースとかで見ませんでした？
笹倉　はいはい。
木暮　吉村さん、上から見てきたらどうですか？
吉村　嫌だよ。
木暮　見張りでしょう？
吉村　嫌だよ、高いところにいたら危ないじゃないの？
笹倉　雷じゃないんだから。
城之内　……とにかくかなり遠いですから。心配ありませんよ。
吉村　ホント？
城之内　ええ。
木暮　一週間後なんじゃないんですか？
城之内　でもあれくらいのはそりゃありますよ。戦争ですから。
吉村　戦争か……。
城之内　ええ。
木暮　ここは大丈夫なんですよね？
城之内　絶対ってことはありませんけど。……比較的という、ええ。駐屯地に近いですから。

と、連続してタンタンタンという音が、重なりあうように。

吉村　激しくなってきたんじゃないの？
木暮　……上岡さん遅いですよねえ？
笹倉　うん。
城之内　川って近いんですか？
吉村　うん、十分くらいの所かな。こっち。（と、反対をさす）
城之内　ま、方向もちがいますし。

吉村　……ああ、もう、嫌だ。何でこんなことになってるの？

少しばかりみんなはその音をきいている。木暮は急に不安になってきた。

木暮　……もっと考えた方がいいですよね？　危険がないように……こう、色々な場合を想定して、もっと規則正しくするとか。
笹倉　うん……。
木暮　上岡さんはそういうことを考えてたんじゃないですか？
笹倉　……。
木暮　……吉村さん、見張りして下さいよ。
吉村　怖いよ。
木暮　だからするんでしょ？
吉村　笹倉がやめたらいいって言ったもん。
木暮　……笹倉さん、一応、交代で見張った方がいいですよ。
笹倉　いや……いいって。（城之内に）いりませんよね？
城之内　時々見に行くといった程度でいいんじゃないですか？
笹倉　ですよねえ？
木暮　でも万が一ってことになったら怖いじゃないですか？　後で後悔するよりいいでしょう？
笹倉　だったらお前が見張ればいいじゃないの？
木暮　そんなのずるいじゃないですか。公平に行きましょうよ。
笹倉　ずるいって……悪いけど、俺はさ、そういうのが苦手なんだよ。
木暮　え。
笹倉　……みんなさ、なるべく好き勝手にやりたいっていうかさ。
木暮　でもルールは必要でしょう？
笹倉　……。

木暮　……いいですよ。僕、あがりますから。誰か上岡さん見に行ってきて下さいよ。
城之内　行きましょうか？　僕。
笹倉　いいよ、戻ってくるよ。
木暮　……（明るく、皮肉な感じ）それも僕、行ってきますね。

木暮は階段をおりていく。
吉村は木暮を目で追う。

吉村　……やっぱり見張りしてるよ、俺。
笹倉　いいよ、いいよ、行かなくて。城之内さんも座って下さいよ。

笹倉は不可解な笑みを浮かべてテーブルに……。
城之内も続く。

笹倉　（明るく）吉村さ、やってよ、なんか。
吉村　え。
笹倉　階段のやつ、なんかやってよ。
吉村　どうして？
笹倉　（城之内に）見たいですよねえ？
城之内　ああ……。
吉村　……どんな？
笹倉　自分で好きなやつ。……分かった、吉村がやったのを俺達がそれはどんな人のどんな状況なのか当てるっていうのにしよう。
吉村　あ、いいよ。
笹倉　（城之内に）いいですか？
城之内　僕は……ええ……でも僕に分かりますかねえ。
笹倉　やってみましょうよ。

城之内　はい。

しかし機関銃の音は続いている。気になる三人。

吉村　じゃ行くね……まず、ええ……これ。

吉村は頭を激しく叩きながら階段をあがって行き、止まる。

笹倉　……終り？
吉村　うん。
笹倉　城之内さん、分かります？
城之内　（困る）ええ、そうですか……ええ、頭を叩いてましたよね？　ええ……頭痛がする人。
吉村　ブー。
笹倉　激しく叩いてたから、なんか悔やんでる感じだよな？
吉村　そうそうそうそう。
笹倉　仕事で大きなミスをした訳だ。
吉村　近いっ。
笹倉　ええ……大きな商談の場で、
吉村　うんうん。
笹倉　重要な書類を忘れて来てしまって、その、契約が取れなかった人が……その商談の場所から出て来てのぼる階段。
吉村　おっしい、もう、ホント惜しい。
笹倉　城之内さん、どうですか？
城之内　（目を白黒させて）あ、あ、そう、そんなに細かくですか？　あの、すいません。分かりません。
笹倉　……正解は？

吉村は音がどうしても気になる。

吉村　……大体笹倉が当たってるけど、ま、大事な商談の場で、ついつい悪乗りしてしまって、相手の担当の人が気にしていることを言ってしまって契約が取れなかった人が……うん、後は正解。

笹倉　……ああ。

吉村　でも惜しかった。

笹倉　一ついい？

吉村　ん。

笹倉　書類を忘れた後悔と、失言してしまった後悔とさ、そのあがり方の中でどこに差がある訳？

吉村　……大丈夫か、あれ。

笹倉　……いいから、次。

吉村　うん。これは城之内さんでも多分、分かりますよ。

城之内　あ、じゃ、頑張ります。

吉村　これ。

と、吉村は太股に手を当てて足を踏み締めながら一歩一歩確実におりてくる。

吉村　さあて、城之内さん、どうですか？

城之内　ええ……ゆっくり降りて来てますよね。

吉村　おっ、大きなヒントに気づきましたね？

笹倉　それが大きなヒント？

吉村　そうそう。どう？

笹倉　……陸上選手が、試合中に肉離れをおこして競技場から出てくる階段。

吉村　ああ、そっちの方に行っちゃ駄目なんだなあ。
笹倉　そうなの？
城之内　（笹倉に）あの、どうしてそんなに細かく分かるんですか？
笹倉　あのね、コツは簡単なんです。適当に言う。これだけなんです。
城之内　ああ。
吉村　ささ、どう？
城之内　じゃ、高層ビルの階段を上から降りてきて……足が棒になっちゃった人……とか。
吉村　ああっ。
笹倉　正解？
吉村　どうしようかな。
笹倉・城之内　ん。
吉村　よし、正解にしちゃおう。
笹倉　しちゃおうって何？
吉村　高層ビルじゃなくて、パリのエッフェル塔に行った日本人観光客が、調子に乗って階段で上から降りてきてという設定なんだけどね。
城之内　ああ……。

と、やっぱり音が気になる。暗転。

第三場と第四場の間

虫の声。

吉村　……ちょっと懐中電灯、交換して。

城之内　……はい。

と、城之内を吉村が照らす。城之内は吉村を。二人は寝転んで話している。他の三人が寝ているのがうっすら判る。

城之内　……眩しいですね。それ。
吉村　で、で？　続けて続けて。
城之内　ああ……で、今日もアレでしょ？　トランクスがいいか、ブリーフがいいかで揉めたでしょ？　壮絶だったじゃないですか、最後の方は。
吉村　まあね、バカみたいでしょ？
城之内　……バカみたいだけどなんとなく怖いんですよ、僕。人が揉めてるのを見るのが怖いんですよ。
吉村　どうして？

城之内は身体を起こして……。

城之内　……この戦争が始まって、とうとう日本も参戦が決まって……最初は空爆なんかが中心でアレだったんですけど、三ヵ月前にここに来て、実際にみんな身体で戦闘に参加するようになってからは内側でも色々あったんですよ。……一人ね、相手に徹底して投降を呼びかけようって一々訴えてた人がいたんですよ。
吉村　投降って？
城之内　ま、殺さずに捕虜にってことですね。
吉村　ああ。
城之内　……その人は上官や仲間の兵士がやった度を過ぎた行為なんかを、いつも非難してたんです。上官なんかはうるさがって

て、で、よく揉めてたんですよ、駐屯地でも。
吉村　ふんふんふんふん。
城之内　ある時、みなさんが来る二週間前ですね……戦闘に行ってその人は戻ってこなかったんですけど……
吉村　え？　死んじゃったの？
城之内　……はい。しかも仲間に殺されたんです。
吉村　……。
城之内　……戦闘に出たりすると大体、麻痺しちゃうんでしょうね。でも、その後表立って誰もそのことを口にする人はいなかったし……僕も何も言えなかったんですけど……。
吉村　……。
城之内　周りがみんなっていうのは怖いですよ。僕だってこうして逃げてなかったら結局、そんな中で従って行くしかなかったんでしょうし。
吉村　……寝ようよ。
城之内　え。
吉村　もう、話すのやめて。
城之内　大丈夫ですか？　眠れないんじゃないですか？
吉村　もういいよ。僕駄目なんですよ、そういう怖い話。お化けとかも全然だし……。
城之内　お化けって……すみません……。

と、城之内は懐中電灯を消す。吉村も消す。

城之内　あ……何ですか？
吉村　いいでしょ？
城之内　いや……。
吉村　お願いです。くっついて寝て下さいよ。

城之内　はあ……。

男達の歌声が聞こえてくる。

第四場

それから三日経った……。正午近く、きつい日差しの中男達は歌っている。

男達の声　ランランララン、ランランララランラン、ランランララン、ランランララランラン……ドゥドゥッドゥドゥ、ドゥドゥッドゥドゥ……ようこそ来たね、お久しぶりだね、コミックメンズ、ショウウゥ。

笹倉、吉村が手を前に突き出して笑顔で並んでいる。それを見ている城之内。

笹倉　分かりました？
城之内　……はい、オープニングの、ですね。
吉村　そうそう。
城之内　……あ、ありがとうございました。

しかし、笹倉と吉村は笑顔で見ている。

城之内　ええと……なんですか？
笹倉　……歌ってみて。
城之内　え？……いや、いいですよ、そんなのは。
吉村　そんなのって何ですか？　まずはこれだよ。これをやらない

とコミックメンの一員にはなれないよ。
城之内　いや、僕は、違いますから。
吉村　いいじゃないの？　ちょっとでいいから。
城之内　ああ……。ランラン……。
吉村　笹倉と一緒に、はい、ズンチャズンチャ……
笹倉　（歌う）ランランラン、ランランラランラン、ランランラン、ランランラランラン……ドゥドゥッドゥドゥ、ドゥドゥッ……。
吉村　……木暮がいないから、城之内さん。
城之内　は？
吉村　ようこそ来たねって言って。
城之内　はい……ようこそ来た……ねえ。
笹倉　お久しぶりだね。
笹倉・吉村　コミックメンズ、ショウゥゥゥ。

吉村達はポーズを。城之内も適当に……。

吉村　違う違う、（手本を示しながら）コミックで右手を口に。メンズで左。で……ショウゥゥゥで前。……はいっ、コミック……
笹倉・吉村　……メンズ、ショウゥゥゥ。
吉村　そうそうそう。
城之内　はい……どうも。
笹倉　本当はショウゥゥゥの時、軽く右足引くんですよ。
城之内　ああ、うん。こうですか……？（右足を引く）
吉村　そうそう。一人前一人前。
城之内　はい。分かりました。
吉村　もう一人で出来る？
城之内　いや……一人では……

吉村　じゃ一緒に最後、行くよ。
城之内　もう……
吉村　ズンチャズンチャ……
三人　（歌う）ランランラン、ランランラン、ランランラ
　ラン、ランランランラン……ドゥドゥッドゥドゥ、ドゥドゥ
　ッドゥドゥ。

吉村と笹倉、城之内を見る。

城之内　……（困りつつ）ようこそ来たね。
笹倉　お久しぶりだね。
四人　コミックメンズ、ショウウゥウゥ。

何とか城之内も最後まで踊る。吉村達は拍手。

笹倉　いいわな、問題ないわな。
城之内　あ、はい。ホント。
吉村　何となくキャラクターでやって行けるタイプだし。
城之内　いや、やるつもりありませんから。

最後に歌っているとき階段を上岡と木暮があがって来る。そして荷物を下ろす。
木暮は笹倉達の様子を見ている。上岡はさも忙しそうに振る舞っている。よくみると木暮は「ウエルカムトゥーメキシコ」のTシャツを着ている。

笹倉　……でもこうして客観的に見るとかなり格好悪いことしてるよな、俺達は。

吉村　嘘、格好いいよ。
城之内　……毎回絶対にやるんですか、これは。
吉村　最初と最後にね。最後の時は「ひとまずお別れ、また会う時まで、コミックメンズショウ」ってなるんですけど。
城之内　ああ。台詞が変わるんですか？
吉村　うん、オープニングは木暮と笹倉が言って、エンディングは上岡と座長が言うんだよ。
城之内　はい。……え、吉村さんは？　ずっとズンチャズンチャ言ってるだけなんですか？
吉村　うん、どういう訳だかそうなっちゃってるんだよ。
城之内　ああ……。
吉村　あれかな、座長がいなくなっちゃったから……あ、今まで僕がやってたパートを城之内さんにやってもらお。
城之内　僕は、別に……（上岡達に）おかえりなさい。
上岡　うん。
吉村　あ、ネタも座長のやってたパート俺がやっちゃおうか？
笹倉　座長のパートってメチャクチャ大変だろう？
吉村　出来るよ、俺で。
笹倉　エムシーとかもか？
吉村　出来るよ、あんなの。
笹倉　喋るネタも自分で考えるんだよ。適当に笑わせたりして。
吉村　出来るよ。「今日は雨ですけど……」とか言うんだろ？
笹倉　んん……ま、いいけど。
城之内　（上岡に）どうですか？
上岡　いや、別段変わったところは……ちょっと上から見てきます。
（木暮に）お前、もう一回地図の作り直し頼むよ。
木暮　はい。

と、木暮は地図の準備をしてテーブルへ。上岡は階段を上に。
笹倉と吉村は木暮に向かって、

笹倉　木暮……どこ行って来たの？
木暮　（答えず、テーブルに座って地図を作り始める）
笹倉　……木暮。
吉村　木暮。
笹倉　木暮。
吉村　木暮。

木暮は返事をしない。
笹倉と吉村は城之内を見る。

城之内　あ……木暮さん。
木暮　（振り向いて）はい。
城之内　いや、呼んでますよ。
木暮　（城之内に）何ですか？
城之内　……（笹倉達に）何ですかって？

城之内がこの後しばらく通訳をする。

笹倉　いやいや、木暮に伝えたいことはね、もう、小学生の喧嘩みたいなことはやめましょうよ、ということなんですよ。とうとう昨日の夜から一言も喋らなくなっちゃったしねえ。
城之内　（木暮に）あの、小学生はやめましょうって。喧嘩は。
木暮　別に喧嘩なんかしてるつもりありませんよ。
城之内　……してないそうですよ。
笹倉　ならどうして喋らないの？

城之内　……どうして喋らないんですか？
木暮　喋ってますよ。
城之内　……喋ってるって。
笹倉　子供じゃないんだから。
城之内　……子供じゃないからって。
木暮　忙しいんですよ、単純に。アリとキリギリスじゃありませんけど、来るべき日に備えて色々することがありますから。そんな歌ったりして遊んでられないんですよ、僕と上岡さんは。
城之内　ああ……（笹倉に）アリと……（木暮に）もう一回言ってもらえますか？
笹倉　あの、僕にはいいですよ、聞こえてますから。
城之内　（木暮に）聞こえてますって。
木暮　は？
城之内　すいません。……こう、何でも僕は応用がきかなくって。

上岡が降りてくる。

吉村　（上岡に）どうだった？
上岡　……城之内さん、アデ山ですか？　あっちの方でなんか煙みたいなものが上がってるように見えるんですけど……何ですかね？　ここからじゃちょっと分かりませんね。
城之内　ああ……大丈夫でしょう？　この分だとやっぱり明後日ですね、計画通り……明後日の早朝から、ええ、一斉に始まるんじゃないですか？
上岡　そうか……。
笹倉　（上岡達に）あの、一応、今日は水汲んどいたからさ、俺が。
城之内　（上岡達に）水汲んでありますからって、笹倉さんが。
上岡　ああ、俺達も汲んで来ましたから。

城之内　そうですか？
木暮　上岡さん。
上岡　何？
木暮　急斜面になってる所から見て、西方向ですよね？
上岡　駐屯地はな、そう。
木暮　ふんふん。
上岡　（木暮に近づいて）どう？
木暮　何とかつながってきましたね。
上岡　うん。
吉村　……ねえねえ、喋ろうよ。耐えられないよ、俺、こういうのって。……城之内さん。
城之内　はあ……（上岡達に）あの、喋ろうって……耐えられないからって。
上岡　だったら協力してくれって。そう言って下さい。
城之内　協力してくださいって。
吉村　何したらいいの？
城之内　（笹倉に）何をしたらいいかって？
笹倉　いや、僕じゃなくてそっち。
城之内　あ、はい。
笹倉　分かったよ。とにかく徹底的に話し合おうよ。こうなったら。
吉村　うん……伝えて下さい。
城之内　徹底的に話し合いましょうって。こうなったらって。
上岡　（振り向いて笹倉に直接）……話しあうも何もさ、お前が一々文句言うからだろ？　座長に似て来たとかなんとか言ってさ、誰かが音頭取ってやらないと仕方ないじゃないの？
笹倉　分かってるよ。ただ、こんな人数でさ、そんな組織的にしなくていいだろうって言ってるだけだよ、俺は。
上岡　（少し詰め寄る）分かってないよ。

笹倉　（同じく）分かってるよ、加減の問題を言ってるんだよ、俺は。
城之内　（止めて）待って待って。……あの、（咄嗟に）言いたいことは僕を通して下さいっ。

四人は一斉に城之内を見る。
変な間。

城之内　……いや、僕を通せって言うのは、あの……うわっと喧嘩になると困るから……僕が、アレになろうかと……あの、キューピットですか？
木暮　いや、キューピットって……集団見合いじゃないんですから。
城之内　あ、はい……でも、なんか……そういう。
木暮　仲裁役ですか？
城之内　そう、仲裁役に……。
吉村　どうするんですか？
笹倉　間に入ってもらうってことだよな。いいですよ。
上岡　よし、やろうよ。徹底的に。

と、同時に四人はとどっと一斉にイスを持ってきて対面に座る。
城之内を真ん中に挟んで……。

城之内　あ……これは……僕が何かを……？
上岡　（力を入れて）お願いします。
城之内　いや、どうしましょう？　あの……というか……こう、なんとか、ふあっと出来ませんか？
四人　……？
城之内　ふあっとていうのはおかしな表現ですね……んん……とに

かく仲良くやりましょうよ。
笹倉　してますよ。上岡達がなんか意地になってるんじゃないの？
木暮　違いますよ。
笹倉　俺はただのんびりやろうって言ってただけだろ？
木暮　のんびりしてられないでしょ？
笹倉　どうして？

言い合いは激しいが、城之内が邪魔なのでみんな首を左右に動かしながらの言い合い。

木暮　笹倉さんだってそう思ってるでしょ？　でも言いだした手前引けないって言うか、笹倉さんこそ一回意地になると絶対に譲らないじゃないですか……一昨日、何か撃ち合う音とか聞こえた時、絶対に不安になったはずなんですよ。
笹倉　なったよ。
木暮　だったら素直にしたらいいじゃないですか？
笹倉　してるよ。どこが意地になってるんだよ。
木暮　意地になってるでしょ？　上岡さんとかがまとめたがるとかそういう次元の問題じゃないんですよ。協力しましょうよ。
笹倉　待て待て……（城之内に落ち着いたトーンで）いいですか？発言して。
城之内　……どうぞ。
笹倉　（再び激しく）分かってるって。俺だって不安だって。でもな、だからといって何も出来ないんだよ、俺達は。これ以上動くのも危ないっていうしさ、どうする訳？
上岡　……（城之内に）いいですか？
城之内　……どうぞ。
上岡　笹倉さ、いいんだって、一回言いだすと引けなくなるのは良

く分かるよ。でもそこはほら、子供じゃないんだから、俺達は。
笹倉　そんなこと言われなくても分かってるよ。
上岡　意地を張るな、な？
笹倉　張ってない。
木暮　張ってますよねえ？
上岡　うん。
笹倉　……大体、どうしてそんなTシャツ着てるんだよ、お前。
木暮　上岡さんが返してくれたんですよ。
笹倉　返すって……そういうことが子供染みてるんだよ。
木暮　笹倉さんだって同じ穴のムジナでしょ？
上岡　おう。
木暮　（城之内に）それにTシャツの話なんか今は関係ありませんよねえ？
城之内　（言われるままに）はい。

どう見ても上岡・木暮組が優勢。

笹倉　……吉村、こっち側に座ってるんだよな？
吉村　うん……。
笹倉　俺、かなり孤独な戦いを強いられているんだけど。
吉村　……うん。
城之内　……じゃ、吉村さん、どうぞ。
吉村　……うん……。
木暮　そうですよ、大体吉村さんはどう考えてるんですか？
吉村　ん？
木暮　言うことといえば怖いとか淋しいとかそういう自分のことばっかりじゃないですか？
吉村　そんなことないよ。

木暮　そうでしょ？
吉村　……だって怖いじゃないの？
木暮　みんなそうでしょ？
上岡　……（高圧的に）お前、一体どういうつもりで逃げてきたんだよ？
吉村　どういうって、あんなにショウやるのやだったし……。
上岡　そうだろ？　「ゲリラをやっつけろ」とか言っちゃって、人殺しの片棒担いで……
吉村　……。
上岡　積極的に参加してるんだよ、戦争に。人殺してるのと一緒なんだよ。
吉村　……。
上岡　俺はそういうのがやだったんだよ。だけどお前は何も考えずに俺達に付いてきただけなんだよ。
吉村　そんなことないよ。座長とかの態度見てて、こんな人だったのかってがっかりしたよ。あんな風にへらへらしてて。
上岡　いや、座長の方がよっぽどえらいよ。
吉村　何だよ、それ……。
上岡　少なくとも自分の考えでへらへら媚売ってるんだろ？……お前はアレだよ。今、俺達が戻ろうよとか言ったら付いてくるだろ？
吉村　そんなことないよ。
上岡　とにかくただノコノコ付いてくるだけの奴は最悪だって言ってるの。
吉村　ひどいこと言うなよっ。
城之内　まあまあ……。

城之内は必死で止める。

木暮　……城之内さん、あまり仲裁役になってませんよ。
城之内　すいません。
笹倉　そう、ただ邪魔な存在になってます。
城之内　ああ。

城之内は下がって階段の方へ。
四人は見つめあったまま。

城之内　それに……戻れませんよ、もう。
木暮　……え？
城之内　……座長さんとか事務所の人ですか？　残った人、いましたよね。
木暮　ええ。
城之内　みなさんが気にすると思って言いませんでしたけど……
……どう処分されるか分からないって……そういう噂でした。みんな笑って「ひどいぞ、これは」とか言って……。
四人　……。
城之内　……多分、あのベースキャンプの中はみなさんが考えてるよりもかなり殺伐とした状態なんですよ。今はホント……完全に戦争をやっているという感じなんです。……僕……ふにゃふにゃしてますけど、とにかく覚悟をして逃げましたから戻らないって……。
他　……。
城之内　……あのショウとか見てる時、みんな異常に盛り上がってたでしょ？
木暮　ええ……バカ笑いって言うか。
城之内　やっぱりみんな恐怖心とかないまぜになって興奮してて。

でも座長さんの後ろに並んでいる皆さんの顔は笑ってなかったんですね。その人たちが逃げたって聞いたとき、いても立ってもいられなくなったんです。救われるような気持ちがしたんです。

他　……。

木暮　……どうなったんですかね？　座長達……。

笹倉　知らないよ。

木暮　冷たいですねえ、笹倉さん。僕たちが逃げたことが原因なんですよ。

笹倉　仕方ないじゃないの。……俺はさ、好きにしたいの。そういうこと言うとすぐ勝手だとか言うけどさ、みんながなるべく好きなようにしてるしかないんだって。

笹倉は立ってテーブルの上にあぐらをかいて、

笹倉　……だから吉村とかさ、上岡に最悪だとか言われてたけど、いいんだって。お前はショウをやりたいんだろ？　日本に戻っても一からでもやりたいんだろ？

吉村　……うん……。

笹倉　それをやればいいんだよ。どんな状態だろうがさ、やればいいんだよ。だから木暮も急に必死にならなくてもいいんだって。

木暮　どういうことですか？

笹倉　……（少し気取った物言いで）殺伐としたところからとにかく遠い存在でいようよ。銃撃の音が聞こえて、そりゃ不安になるけどさ、そういう時も遠い存在でいようよ。いつも平気な顔してさ階段マイムやってたらいいんだよ。コミックメンズショウって歌ってたらいいんだよ。……キリギリスが駄目なのはさ、冬になってアリの所に行くじゃないか？　冬でもキリギリスは

歌ってれば良かったんだよ。所詮そういうもんなんだから。……意地張るならな、そういう大きい所でさ、張りたいわな、やせ我慢っていうの？

城之内　……そそそ……そういうのが、いいなって……思いますね。みなさんは……こう、何か、アレって感じがして……。

他　？

城之内　武器があるっていうか……ペンは力より力があるとか……

他　え？

城之内　違うな……ペンは刀より切れるペンとか……

他　……？

城之内　……自分で頓珍漢なこと喋ってるのは分かってますけど……

木暮　急にヘロヘロになりますよね、城之内さん。

城之内　ああ……なんかコンプレックスみたいなのがあるんですね、喋るのとかに……だからみなさんが羨ましいっていうか、ああいうことが出来るっていうのが。そうそう、遠い存在ですか……ねえ？

こう、やりましょうよ……何でしたっけ？　さっき教えていただいたやつ……オープニングですかね、こう……ズンチャッチャ、ズンチャッチャ……そうれ。

盆踊りのようなメロディ。

吉村　何です、それ？

城之内　……こんなのじゃなかったですね……やって下さいよ。

しかし、みんなやる気配はない。

城之内　どんなのでしたっけ……ズンチャッチャ、ズンチャッチャ……そうれ。違うな。
木暮　さっきと一緒ですよ、盆踊りですね、それは。
城之内　はい。あ、思いだしました……ズンチャッチャ、ズンチャッチャ……そうれ。
笹倉　多分、それ、五線譜に直したら全く変化してませんよ。
上岡　しかも和音階だよな、これは。
城之内　すいません。
吉村　仕方ないな、もう……こうですよ……ズンチャズンチャ……

みんながついてこないので、

吉村　ちょっと……ズンチャズンチャズンチャズンチャ
他　（歌う）ランランラン、ランランラン、ランランランラン、ランランラン、ランランラランラン……ドゥドゥッドゥドゥ、ドゥドゥッ……。
木暮　ようこそ来たね。
笹倉　お久しぶりだね。
他　コミックメンズ、ショウウウウ。
城之内　（拍手して）あ、はいはい。……あ、でも一応、僕も、吉村さんに教えられたりして、階段のやつとか自分で考えたりしてたんですよ。
他　え。
城之内　（慌てて）いや、そういう、やる気になったとかじゃなくてですね、昨日寝ながらなんとなく考えてたっていうだけなんですけど。
笹倉　……やってみてよ。
城之内　とんでもないっ。そんなじゃなくて。

上岡　やってください。
城之内　いや、あの、みなさんを和ませたいって言うアレで、こういう発言をしたんで……別に……
笹倉　やったらきっと和みますよ。
城之内　大したのじゃないんですよ。それに頭で考えてただけで、やってみてないですし。
木暮　あ……それでか。
城之内　え。
木暮　いや、今日の朝ね、なんか城之内さん、階段を変な上り方してたんですよ。やってみてたんですね？
他　（感嘆の声）
城之内　ああ……（身をよじって照れる）
吉村　やってみてよ。ほら。

みんな、拍手で。仕方なく階段に向かう城之内。

城之内　……いや、ホント、下らないやつなんで……あの、積極的に見せたいんじゃなくて、こう、みなさんのキューピット役として仕方なくやるというか……
笹倉　いいから。
城之内　ああ……じゃ、ええ……自分の初めて書いた漫画が……雑誌に掲載されて……その雑誌を買ってきた時の階段の上り方。
吉村　（笑って）タイトル長すぎるよ。
他　（一瞬吉村を見て）……。
城之内　ああ……でも……じゃ、行きます。

城之内はキリっとした表情で雑誌をギュっと抱えて階段をあがる。が、途中一瞬ニヤリとしてその後周りを一瞬伺い、すぐに

しかめっ面になり上っていく。……とにかく繊細な表現。
そしてすぐ恥ずかしそうに降りてくる。

城之内　すいません。
木暮　……いいんじゃないですか？
吉村　え。
笹倉　うん、確かに。
吉村　分かりにくいけどね、ちょっと。
木暮　かなり表現が微妙でいいんじゃないですか？
城之内　ああ……（嬉しい）どこが？
笹倉　……嬉しいときにまずしかめ面を作って、で、一瞬漏れてしまうほほ笑みがあって、すぐに周りの視線を気にして不自然なほど真顔に戻すっていう……人の自意識を巧く表現してるよな。
上岡・木暮　うん。
城之内　（興奮気味）ええ、なんか、そんな風に考えたんです。
木暮　うん、いいじゃないですか。
城之内　（頬を紅潮させて）もう、それは……
上岡　……今、それ、降りてくる時は関係ないよね？
城之内　あ……ええ……降りて来るのはアレです……「慣れない芸を披露させられてたまらなく恥ずかしい人が階段を降りてくるところ」です。ハハハ、すいません。
上岡　……（驚いて）アドリブだよ、アドリブ。
木暮　凄い凄い。
笹倉　城之内さん、どうしちゃったの？
城之内　（自分でも驚いて）どうしちゃったんでしょう……気がつかない間に喋っちゃったんです。
上岡　素質あるんじゃないの？
城之内　ありますか？

木暮　……他には何かないんですか？

吉村以外は城之内の周りに集まってくる。

城之内　あ、この階段のやつは……これだけなんです……いや、これ、階段というのだけでは無理があるように思うんですよ。だから、逆にとある人が色々な局面でやることを見せた方がいいんじゃないかと思うんですけど。

笹倉　え？　どういうこと？

城之内　いや、具体的には今の人が店でその雑誌を見つけた所とか、つまり場所を動かすっていうか。

上岡　やってみてよ。

城之内　いや、どうですかねえ。

笹倉　いいから。

城之内は何気ない表情で雑誌を探す。発見して手に取りゆっくり頁をめくっていく。そして……発見。辺りを見回し、それから雑誌に視線を戻すと、指でアゴを掻く。

笹倉、木暮、上岡は拍手。

笹倉　いやいやいや、アゴ掻くのがいいね、アゴ掻くのが……掻けないよ、中々。

木暮　ですよねえ。

城之内　（すっかり舞い上がって）なんか、そんなの、あるなって感じたんですよ。こう、日常の人を正確に描写するっていうか……地図を作るみたいに、おい、俺はイノウタダか。

上岡　ちょっとちょっとちょっと。

笹倉・木暮　（盛り上がる）

吉村　（紛れて）伊能忠敬だよ。
上岡　……なあなあ、ホントさ、座長のやってたネタとかも出来るんじゃないの、城之内さん。
木暮　ですねえ。
城之内　（甲高い声で）そんな、そんな、めっそうもないですよ。座長さんってあの太った、ねえ？……一番、盛り上げてた人でしょ？　そんなのは、いいですよ。

しかし笑顔。

笹倉　確かに技術は凄いんですよ、あの人。
城之内　でしょ？　だから無理です、ハハハ。
木暮　だけど、ほら、吉村さんが言ってたみたいにもし日本に帰ってからライブやるとして、座長の作ったネタはやらないとしても、五人のネタばっかりじゃないですか？　だから、ホント、やってもらいましょうよ。
城之内　もう、どうしましょうか……
上岡　ん？
城之内　頭では分かってるんです。めっそうもないってことが分かってるんですけど……どういう訳だかすっかりその気になりかけているんです。
笹倉　いいじゃないですか、その気になれば。
城之内　はあ。
木暮　そしたら帰ってからも出来ますよ。出来るじゃないですか？ねえ、吉村さん。

見ると吉村はなぜか下を向いている。

吉村　……。
木暮　出来ますよ、五人いれば、吉村さんの好きなショウが。
吉村　うん。そうだそうだ。
城之内　何か、練習します？
笹倉　乗ってますね、城之内さん。
城之内　（照れ笑い）ええ、まあ。
木暮　やりましょうよ。

と、イスの輪を広げる。

上岡　……大丈夫かね？
笹倉　何か？
上岡　いや、こんなことしてて……。
城之内　上岡さん、遠い存在ですよ。上岡さんはキリギリスなんですよ。イノウタダではなくて。

みんな、笑う。

吉村　（笑いに紛れて）伊能忠敬だよ。
城之内　すいません、オープニングどんなのでしたっけ？
木暮　一回歌って、それからネタに行きましょう。
笹倉　最初の前説とかは？　城之内さんにやってもらう？　吉村やるか？
吉村　城之内さんでいいと思う……。
上岡　じゃ、吉村。
吉村　ズンチャズンチャズンチャズンチャ
全員　ランランララン、ランランラランラン、ランランララン、ランランラランラン……

木暮　ドゥドゥッ。
上岡　ドゥドゥ。
笹倉　ドゥドゥッ。
上岡　ドゥドゥ。
木暮　ようこそ来たね。
笹倉　お久しぶりだね。
全員　コミックメンズ、ショウウウウ。

ビシっと踊りまで揃うコミックメンのメンバーと城之内。

木暮　……何か、久しぶりに練習してるって感じですよね？
笹倉　で、ここからまず、前説のエムシーが始まるんですよ。
城之内　え？　いきなり僕ですか？
上岡　何でもいいんですよ。来てくれてありがとうとかそういうの言って、適当に笑わせて……
城之内　はい。笑わせて……。
笹倉　で一発目のネタだけど……
木暮　動きのあるやつから行きましょうよ。
上岡　じゃ……アレ、行くか？「パンチキック」……
笹倉　いや、「人間回り舞台」のネタの方が良くない？
木暮　そうですよね？　パンチキックはかなり練習もいるし。
上岡　回り舞台の方が大変だよ。
笹倉　そんなことないって。
木暮　パンチキックは上岡さんが受けるからでしょ？　そのままつながりで蛇のネタに行くしかないし。
上岡　そんなんじゃないよ。
城之内　……あ、僕は何でもいいです。
笹倉　パンチキックはさ……吉村の出番ないじゃないの。

吉村　……。
木暮　回り舞台いきましょうよ。
上岡　そうか……
城之内　どんなのですか？
木暮　あのね、簡単に言うとイス取りゲームあるでしょう？　あれを元に作ったもんなんですけど、どうしたって特定の一人が座れないって言うやつなんです。この前のショウではやらなかったんですけど。
城之内　はいはい。
笹倉　イスも四つあるしな……じゃ、並んで……城之内さんは吉村と木暮の間に……。

みんなその位置に。輪になって。

笹倉　まずは普通にまわります。

みんな、まわる。

笹倉　音楽、切れた。で、城之内さん以外は座る。

しかし吉村も座らない。

木暮　吉村さん、座らないと。
吉村　うん……。座長の代わりは城之内さんだよね？
笹倉　うん、このネタはな。
吉村　うんうん。

と、吉村は座る。

笹倉　で再び音楽で立って歩くと。

吉村は立たない。

木暮　吉村さん？

吉村　ん？

木暮　どうしたんですか？

吉村　どうもしてないけど……

木暮　立たないと。

吉村　あ……（立って）あの、もしやるとしたらさ……階段マイムとかもやるの？

上岡　ああ、やったらいいんじゃないの？

吉村　誰が？　僕が？　城之内さんが？

笹倉　そりゃ、吉村がやればいいんじゃないの？

吉村　ふんふん。

城之内　ええ……僕、新しいの考えますから。

吉村　そんなにすぐ考えられないよ。

城之内　はい……でも、なんか、出来そうな感じがするから。

木暮　出来るんじゃないですか、その感じなら。

吉村　……。

笹倉　はい……とにかくこのネタを覚えないと……はい、歩く……

みんなは歩きだす。

笹倉　音楽、切れた。で、城之内さん以外は座る。

しかし吉村も座らない。

木暮　……吉村さん？

暗転。

四場と五場の間

虫の声が聞こえる。

木暮　……もう、みんな、寝ました？

他　いや。

笹倉　さすがに緊張して眠れないよな。

懐中電灯が一斉につく。

上岡　城之内さん……大体、何時頃から始まりますか？

城之内が照らし出される。この後、話している人の顔をみんなの懐中電灯は照らす。

城之内　さあ……でも大抵はホント早朝から部隊は動きだしますからねえ……四時とか五時とか、とにかく夜が明けたら、ええ。

木暮　ここでじっとしてたらいいんですよね？

城之内　何とも言えませんけど、たぶんねえ。

上岡　……良かったのかな、こんなことで。

木暮　でも一日を乗りきれば帰れるじゃないですか？

笹倉　……少し間をおいた方がいいだろ？　戦闘が終わってすぐは無理だよ。

城之内　それにみなさんはいいですけど……僕は特にね……ここでしばらく待ちます。だから、日本に帰ってからお会いすることになりますけど。

木暮　……おかしなこと言いますよ。

笹倉　誰が？

木暮　僕が。

笹倉　は？

上岡　何言ってるの？

木暮が照らし出される。

木暮　いや……どうして戦争なんですかね？　いや、別に誰かに聞いてるわけじゃないんですけど……

上岡　どうしてかねえ。

笹倉　変なこと言うよ。

木暮　誰がですか？

笹倉　俺。

上岡　だから何言ってるの？

笹倉が照らし出される。

笹倉　（気取った調子で）いや、人と人がいればそこには争いが起こるんだって。ある立場に立った途端それに反対する奴は憎くなるわな。メキシコのTシャツがさ、どっちのものか分からないように、絶対に譲れないんだって。

木暮　あれは僕のですけどね。

笹倉　違うよ。

木暮　それだけはそうですって。

笹倉　違うって言ってるだろ？
城之内　やめて下さいよ、二人とも。
木暮・笹倉　……。
城之内　言ってるそばからじゃないですか。
木暮　笹倉さんがしつこいからですよ。
笹倉　……たぶん、安いＴシャツだろ？　あれ。そんなものが欲しい訳じゃないじゃない？　自分のだったってことを認めさせたいだけじゃないか。
上岡　俺さ、大学のサークルで合宿があっていつもソフトボールやったけど……。

上岡が照らし出される。

上岡　……チーム分けするじゃないの？　例えば西日本出身対東日本出身とか……そうするとさ、途端に目覚めたりするんだよね、みんな。何だか楽しいはずのソフトボールなのにセーフの判定を巡って揉めたときとか、必要以上に激しくなっちゃったりさ……嫌だったよな、あれ……
城之内　あれ……吉村さんは？

四本の懐中電灯は吉村を探す。

城之内　いませんね？

すると……階段を吉村がおりてくる。懐中電灯は吉村を照らし出す。吉村は変なポーズ。

吉村　お。

木暮　……何してるんですか？
吉村　うん……相変わらず眠れなくてさ。
笹倉　今日は頑張って寝といた方がいいよ。
吉村　うん……。
木暮　目つむってじっとしてたら寝れますよ。
吉村　分かった……。
木暮　階段マイムの練習は終わってから存分に出来ますから。
吉村　違うよ。
木暮　やってたじゃないですか、今。
吉村　……なんか……ポジションが危ないし、俺。
笹倉　……寝ようよ。
城之内　おやすみなさい。
他　おやすみなさい。

一斉に懐中電灯は消える。

吉村　寝ちゃうの？　みんな。
他　うん……。
吉村　寝ちゃうのか……。
木暮　吉村さん、毎日毎日……一体いつ寝てるんですか？
吉村　自分でも分からないんだよ。
木暮　眠って下さい。
吉村　うん……ねえねえ、帰ったら、やろうね、五人で、ライブ。
他　……うん。
吉村　ランララララン、ランランララランラン、ようこそ来たね……
上岡　うるさいっ。

と、ヘリコプターの旋回音。五場へ。

第五場

ヘリコプターはゆっくり飛び去っていく。
明かりが点くと全員真ん中に固まって中腰で立っている。吉村だけしゃがんでいる。
後方を見ている状態だ。
全体に薄暗い明かり。曇り空。

何をしているのか……。みんなの身体は緊張している。
そしてゆっくりとゆっくりと時間は進む。
まだ、かすかにヘリコプターの音が聞こえている。

そして静寂が訪れる。しかし五人は動かない。

上岡　……終わったんじゃないのか……。
城之内　ええ……終わったとは思うんですけど。
上岡　でしょ？　終わったんでしょ？
城之内　……はい……。

間。

木暮　（少し伸び上がり確認。そして元に戻って）何するつもりですかね……。

間。

木暮　ねえ……何をするつもりですかね……。

上岡　……（少し伸び上がる）どう見ても助けに来たんじゃないですよね……。
城之内　はい……。
笹倉　（一瞬伸び上がる）あれ……みんな……日本人だろ？
城之内　……戦闘の帰りです……多分。……組織だったアレじゃないし……十二、三人しかいないし……。

間。

木暮　（伸び上がる）何話してるんですか？　あれは……
笹倉　捕まえるならさっさとしてくくればいいのに……なあ？

間。

と、すごい勢いで一斉にしゃがむ。

吉村　どうしたの？

誰も答えない。

吉村　どうしたの？　何があったの？……ねえ？

上岡は驚いたように……。

上岡　……銃を構えたんだよ……こっちに向けて……
吉村　……。
木暮　……殺されますか？　僕たちは殺されますか？
笹倉　脅しじゃないのかな、脅し。
木暮　逃げます？　逃げます？

笹倉　どうやって？

と、城之内はそろりそろりと身体を伸ばし後方を見る。

上岡　……まだ、構えてます？

城之内　……はい。

間。

笹倉　白いもんとかさ、振った方がいいんじゃないの？　Tシャツとか、ねえ？

誰も答えない。

城之内　……笑ってますね……みんな……嬉しそうに……。

城之内は中腰からもう少ししっかりと立ち上がる……。

鳥の鳴き声が静まりかえった森の中に響く。

静寂。

城之内　……僕ですね。……僕を殺すつもりなんですよ、あれは……。

うずくまった四人は城之内を見上げる。

城之内　……前にもありましたから、裏切った人が仲間から殺されたことが……あの人達なんですよ、殺したのは。たぶん。

城之内は四人を見て……。

城之内　皆さん……。

四人　……。

城之内　……多分、僕が目当てですから、大丈夫ですよ、みなさんは。

木暮　……助かるってことですか……

城之内は囲んでいる人々に目をやると……再び四人を振り返り、

城之内　……降ります、僕。

四人　……。

城之内　この鉄塔を。

四人　……。

再び、鳥の鳴き声。

四人は身体を起こす。

間。

城之内　……ありがとうございました……色々。

笹倉　殺されるんでしょ？　城之内さん。

吉村　（かすかに笑う）ハハハ。

城之内　どうしたんですか？

吉村　おしっこ出ちゃった……三十歳なのに……おしっこ出ちゃった。

城之内は吉村のそばへ行って肩を抱く。

城之内　……僕、あんまり怖くないんですよ……たぶん、みんながこうだから自分では気がつかないんですかね？　ほら、誰かが酔いつぶれると介抱してる方は酔わないですもんね……。
笹倉　……。
城之内　元気でいて下さい。……日本に帰ってコミックメンズショウをやって下さい。
上岡　……おい、このまま城之内さんを見殺しにするの？
木暮　どうすればいいんですか？
上岡　いや……。
城之内　無理しないでください。
木暮　……笹倉さん、どうしますか？
笹倉　ん。
木暮　……笹倉さん、冬が来てもキリギリスは歌うとかなんとか……言ってたじゃないですか？……遠い存在がどうのこうのって言ってたじゃないですか？
笹倉　うん。
城之内　いいですから、もう。

と、城之内はゆっくり立ち上がる。

木暮　城之内さん、待って下さいよ……（笹倉達に）ここで城之内さんだけが殺されて、僕たちだけ助かって……それでライブとか出来ますか？　人を笑わせたり出来るんですか？……ねえ、やせ我慢しましょうよ。意地を張るならって言ってたでしょ？……上岡さんも、何かぶつぶつ言ってたわりになんですか？
上岡　……。

木暮は立ち上がる。

木暮　……慣れちゃえば平気ですよ。ね。平気ですよ。……上岡さん。

上岡も怯えながら立ち上がる。

木暮　……笹倉さん。

笹倉　ん？

木暮　Tシャツ叔父さんの土産でもなんでもいいから。

笹倉　おうおうおう。

笹倉はうなづくが立たない。

木暮　（怒る）立って下さいよ、情けないな。

笹倉　怒るなよ……分かってるよ……。

仕方なく及び腰で笹倉は立つ。
そして城之内を見る。

城之内　……ホント、いいですから……

木暮　……銃、下ろしてますね。

と、笹倉が何かに気づいた。

笹倉　あ……上岡……

上岡　……ん……

笹倉　……あの、後ろ……

上岡　何？
笹倉　木の陰……枝がくねくねしてる木の陰……
木暮　……あ……
笹倉　……座長だろ……どう見ても……
吉村　え。

吉村も立ち上がる。コミックメンの四人は身体を寄せ合ってそれを見る。

吉村　どういうこと？
上岡　……やっぱり俺達も一緒にってことじゃないの？
木暮　え。
上岡　だって、あんな所に隠れて見てるなんてさ。
城之内　……無理やり見せられてるんでしょう。
木暮　……事務所の二人も一緒ですね……
笹倉　……さすがに辛いだろうなあ。
城之内　ひどいって……こういうことだったんですね……

吉村はへたり込んで座る。

木暮　……城之内さん……鉄塔を降りなくてもいいですよ……僕たちも殺されるんですよ、きっと。
城之内　……そうですね……。
笹倉　……そうか……。

間。

吉村　……出来ないんだな、もう、ライブは。

上岡　逃げただけなのになあ……こんなのなあ……
笹倉　……大変なことになっちゃったわな。

と、城之内は少し笑って……。

城之内　……このままじっとしてます？　身を任せてなるようになっちゃいます？
四人　ん？
城之内　悔しいじゃないですか……黙ってうやむやの内に殺されるなんて悔しいじゃないですか？

しばらくみんな何かを考えているが……。

上岡　……よし。
木暮　新メンバー御披露目と行きますか。
上岡　（座長を見て）うん、首だ、あいつは。

みんなは座っている吉村を見て……。

笹倉　吉村……お前、前説とかもやらないと……。
吉村　俺？
木暮　そうですよ。それにオープニングだって、吉村さんが歌いださないと……始まらないんですよ。
吉村　うん。
上岡　……立てよ。
吉村　うん、やせ我慢するか。

と、吉村は立ってイスなどを脇へ。他の四人もスペースを作る。

木暮　初めてですね、野外ライブは。
笹倉　ま……そうだわな。
城之内　……曇ってますけどね、空。

ちょっと上を見上げる。
どんよりとした空。
しかし何だかリラックスした雰囲気になってきた。

木暮　……ま、曇ってても、何でも、とにかく納得の行くライブをやりましょう。
上岡　……また、銃を構えましたよ。

一瞬、動きが止まる五人。

木暮　……どうします？　時間なかったらいきなりエンディング歌います？
笹倉　……オープニングだろ？　ライブはいつもオープニングからだよ。
木暮　ええ。
城之内　……僕は新しいのを披露したらいいんですか？　初めてなんで緊張しちゃって……。
木暮　どうぞ。……ただ、階段マイムは吉村さんに残しておいて下さいね。
城之内　……はい。
笹倉　まずはあれだ、頭上だけでも晴れた空にな。

いいながらコミックメンズショウのオープニングの形になる。

そして柵に近づく。
間。
吉村がリズムを刻み始めた。
五人の立っている所だけに日差しが……。
そして……囲まれる中、コミックメンズショウが始まった。

全員　ランランラン、ランランランラン、ランランランラン、ランランランラン……ドウドウッドウドウ。ドウドウッドウドウ。
木暮　ようこそ来たね。
笹倉　お久しぶりだね。
全員　コミックメンズ、ショウウウウ。

全員が手を突き出す。吉村が一歩前に出て。

吉村　ええ、少し晴れ間ものぞいてきましたが……

その一瞬、突然明かりは落ちて……。幕。

注・落語「そこつの使者」を参考にさせていただきました。

23
12
31　25　16
10

13
10　26　20

©1998　by Hideo Tsuchida
禁無断複写、転載。

■上演に関するお問合せは…
有限会社キューカンバー
〒605-0942　京都市東山区蒔田町 549-3 藤ビル 2F
Tel◇075-525-2195　Fax◇075-525-2197
E-mail◇info@cucumber-m.com　URL◇http://cucumber-m.com